

雲南市三刀屋町の宮田遺跡からみた山間部の縄文社会

—遺構および縄文土器の再整理と検討—

幡 中 光 輔

1. はじめに

鳥根県東部の山間部の雲南市三刀屋町多久和に所在する宮田遺跡は、斐伊川水系の飯石川と森谷川が合流する地点付近の河岸段丘に立地しており（図1）、縄文時代後期前葉の土器埋設遺構が確認された遺跡として著名である。宮田遺跡は県営圃場整備事業に伴い、当初は京殿遺跡の宮田地区⁽¹⁾として1979（昭和54）年5月から7月にかけて発掘調査が実施されており、その調査成果を関係者や地元によく周知するため、調査概報（以下、概報）として一部が報告されている（西尾編1979）。そのなかでは、遺構平面図の一部と埋設土器、および主な出土土器が図面で示されているほか、石器類についても言及されており、宮田遺跡の概要を把握することができる。なお、近接する鳥根県奥出雲町で同時期頃に調査された斐伊川中流域の河岸段丘に立地する暮地遺跡でも土器埋設遺構が確認され（杉原1981、野津ほか編2004）、鳥根県東部の山間部に縄文時代の遺跡が良好な状態で残存する可能性が把握されていた。

その後、斐伊川中流域の尾原地区においてダム建設事業に伴う発掘調査が実施されたことで多数の縄文時代遺跡が見つかり、この地域における縄文時代の地域社会の様相が明らかになった。そのなかでは、複数の遺跡から土器埋設遺構が見つかり、斐伊川中流域は縄文時代の精神文化を考えるうえで重要な情報を提供する地域として認識され、現在様々な調査研究が進展している。

こうした動向のなか、斐伊川中流域の遺跡群に近接する宮田遺跡に注目が集まるようになったが、土器埋設遺構を含めた遺構の特徴や時期などの詳細な情報が未報告であり、概報以上の内容を把握することは困難であった。この状況を受け、本稿では雲南市教育委員会所蔵の出土遺物および当時の調査図面・写真や調査記録を整理し、宮田遺跡の遺構の時期や特徴を把握するとともに、斐伊川中流域遺跡群の調査成果との比較検討を行うことで、宮田遺跡からみた山間部の縄文社会の様相を検討したい⁽²⁾。



図1 宮田遺跡の位置と周辺地形図

2. 三刀屋町周辺の縄文時代

ここでは、宮田遺跡が所在する三刀屋町周辺の縄文時代遺跡の様相を概観したい。三刀屋町内を流れる斐伊川支流の三刀屋川流域や飯石川流域では多くの縄文時代遺跡が確認されている（図2）。

まずは、縄文時代前半期の代表的な遺跡に注目する。現在のところ、町内で最も古い時期の遺跡は、胎土に繊維が混入する土器を含む早期後葉の菱根式や後続する福呂Ⅰ式などが確認された浜遺跡である。なお、押型文土器に代表される早期中葉の土器は見つかっていないが、近接する斐伊川中流域遺跡群では早期中葉の土器が出土しており、三刀屋町内でも今後の調査などで確認される可能性がある。前期には確認される遺跡数が増加し、前期前葉の条痕文系土器である長山馬籠式や西川津式が散見される。長期間継続する遺跡は見当たらないものの、堂々ノ内Ⅱ遺跡では西川津式、前期中葉の北白川下層Ⅰb式、前期後葉の里木Ⅰ式が出土するなど断続的に活動が展開していたと考えられ、遺跡付近に前期の集落跡が存在する可能性が考えられる。中期には島根県全体で遺跡数が減少しており（幡中 2014b）、三刀屋町内における中期前半の様相は不明瞭である。中期後葉になると馬場遺跡などで里木Ⅱ式が出土しており、今回報告する宮田遺跡でもこの頃に設営された貯蔵穴が複数確認されるなど、人々の活動が地域内で徐々に活性化の様相が看取される。

縄文時代の後半期は、西日本で確認される遺跡数が増加するが、三刀屋町内でも五明田式・暮地式などの後期初頭の土器が複数の遺跡で出土した。宮田遺跡ではこの時期の土器出土量が増加し、明確な居住痕跡は認められないものの、近くに住居跡などが存在した可能性がある。後期前葉は宮田遺跡で土器埋設遺構が確認でき、成立期縁帯文土器や崎ヶ鼻1・2式などがまとまって出土した。また横原遺跡では、後期中葉の関東地方における加曾利B1式の影響を受けた注口土器の口縁部突起を持つ土器が認められるなど、地域間交流が盛んに行われたことが推察できる。その後、後期中葉から後葉にかけては宮

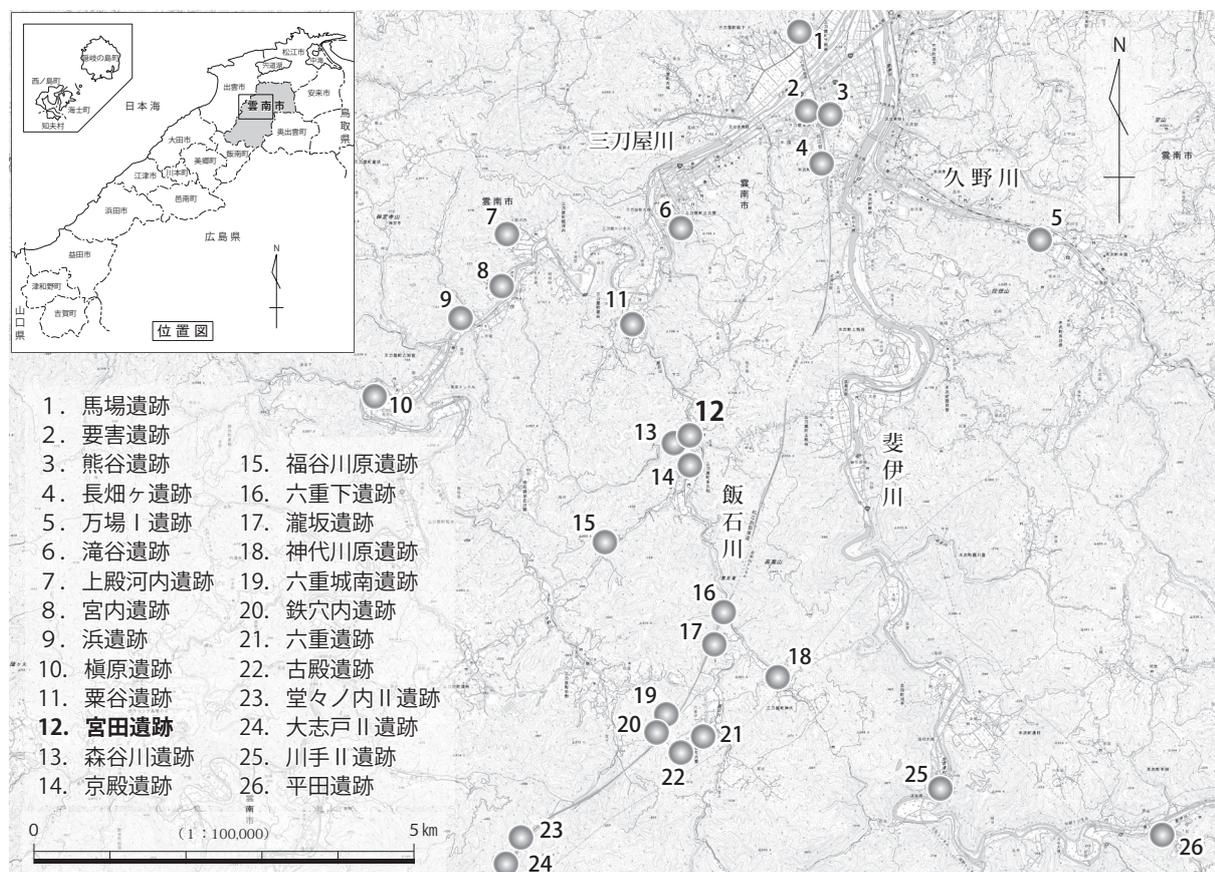


図2 三刀屋町周辺の縄文時代遺跡の分布と宮田遺跡の位置

田遺跡で土器出土量が大きく減少するほか、その他の遺跡でもほとんど遺物が確認されていない。

続く晩期には、宮田遺跡のほかに馬場遺跡、浜遺跡などで土器が散見されるものの、それ以外の遺跡では確認できない。

このようにして見ると、三刀屋町周辺の縄文時代の盛期は後期初頭から前葉であり、それ以降は地域全体で活動がやや低調であった可能性を示唆する。一方、近接する斐伊川中流域遺跡群では、後期中葉以降も多くの遺跡が存続しており、今後、地域間の関係などを詳細に検討する必要がある。

3. 宮田遺跡の調査概要

(1) 調査に至る経緯と経過

宮田遺跡の発掘調査は、鳥根県教育委員会の西尾克己氏と鳥根県埋蔵文化財調査員であった杉原清一氏を中心に進められた。調査後の整理作業のなかで、調査の経緯や調査状況が杉原清一氏によって草稿としてまとめられていた⁽³⁾(以下、杉原草稿)。それによれば、宮田遺跡は、三刀屋町多久和で1979(昭和54)年に県営圃場整備事業が計画され、部分的に施工準備が行われた1979年5月に三刀屋町文化財保護委員の重富福太郎氏により宮田地区の耕作土直下から土器片などが採取されたことで発見された。

当時の三刀屋町教育委員会は、京殿遺跡の発掘調査に着手しており、宮田地区もその調査の一環として確認調査が行われることになり、1979年6月11日から7月2日まで現地での発掘調査が実施された。その後、11月まで出土遺物の整理作業が行われている。

(2) 調査区の設定と土層堆積状況

調査区と土層堆積状況は杉原草稿に記されており、その内容を踏まえて報告する。宮田遺跡は飯石川に沿った水田地帯にあたり、微砂または粗砂を地山とする。地山上には砂粒を含む火山性の黒色土とされた土層が堆積し、水田はその表面を耕作して営まれている。黒色土には縄文時代から古墳時代の遺物が含まれる。なお、調査開始時点では既に耕作土とその下層の黒色土の上面が工事準備のために重機で掘削されており、残存する黒色土の一部が表土層として取り扱われた。

宮田遺跡の調査区は、飯石川寄りの低位水田から西側の丘陵裾部の高位水田にかけてⅠ～Ⅳ区とし、中央を東西に通る農道によって北側をA区、南側をB区として設定されている(図3)。各区において幅2m程度のトレンチを設けて状況を確認し、AⅠ区およびAⅣ区において遺構が確認されたため、調査面積を拡大して発掘調査が実施された。なお、概報においても報告されているが、AⅠ区は弥生時代から古墳時代にかけての遺構が見つかっており、AⅣ区では土器埋設遺構などの縄文時代後期前葉を中心とした遺構が多数確認されている。またBⅠ区では、弥生時代から古墳時代にかけての遺構が確認されたが、BⅡ区からは遺構は見つからない。

AⅠ区およびAⅣ区の土層堆積状況からは、河川作用による厚い粗砂または微砂の地山上に遺構面が形成され、その上に遺物を多量に包含する砂粒を含む火山性の黒色土が堆積することが分かる(図4・5)。黒色土は分層されていないが、全般にわたって縄文土器が包含されており、上位では縄文土器のほかに須恵器や土師器が出土し、下位の地山付近には縄文時代の遺構に伴う遺物が確認されている⁽⁴⁾。

火山性の黒色土についての理化学分析はなされていないが、宮田遺跡に近接する斐伊川中流域における雲南市の北原本郷遺跡8区(熱田ほか編2007a)の土層堆積状況が参考になる。北原本郷遺跡8区では、縄文時代後期初頭～前葉の遺物を多く含む土層上面から三瓶太平山降下火山灰(第1ハイカ)が確認され、その上に堆積する黒色土からは後期前葉の遺物が出土している。こうした北原本郷遺跡8区の状況を参照すると、後期前葉を中心とした遺構面上に堆積する宮田遺跡の火山性の黒色土には第1ハイカが含まれており、黒色土は第1ハイカ降下時期の後期前葉の崎ヶ鼻2式期(幡中2014a)よりも新しい時

期に堆積した可能性が高いと考えられる。

なお、宮田遺跡の各調査区から出土した土器量は、概報で示された重量集計をもとに整理した表1のとおりである。表1を見ると、縄文土器は出土量全体の8割以上を占めており、そのなかでも特にAIV区に集中することが分かる。AIV区は森谷川を挟んだ北西側が丘陵裾部にあたり、その周辺には縄文時代の活動が展開していた可能性が高いと考えられる。

4. AIV区の調査成果

(1) AIV区の遺構配置

AIV区の遺構平面図の一部は概報で示されているものの、AIV区全体の遺構配置や遺構の詳細な時期は不明であった。今回、調査図面や日誌などの当時の調査資料を改めて確認するとともに、雲南市教育

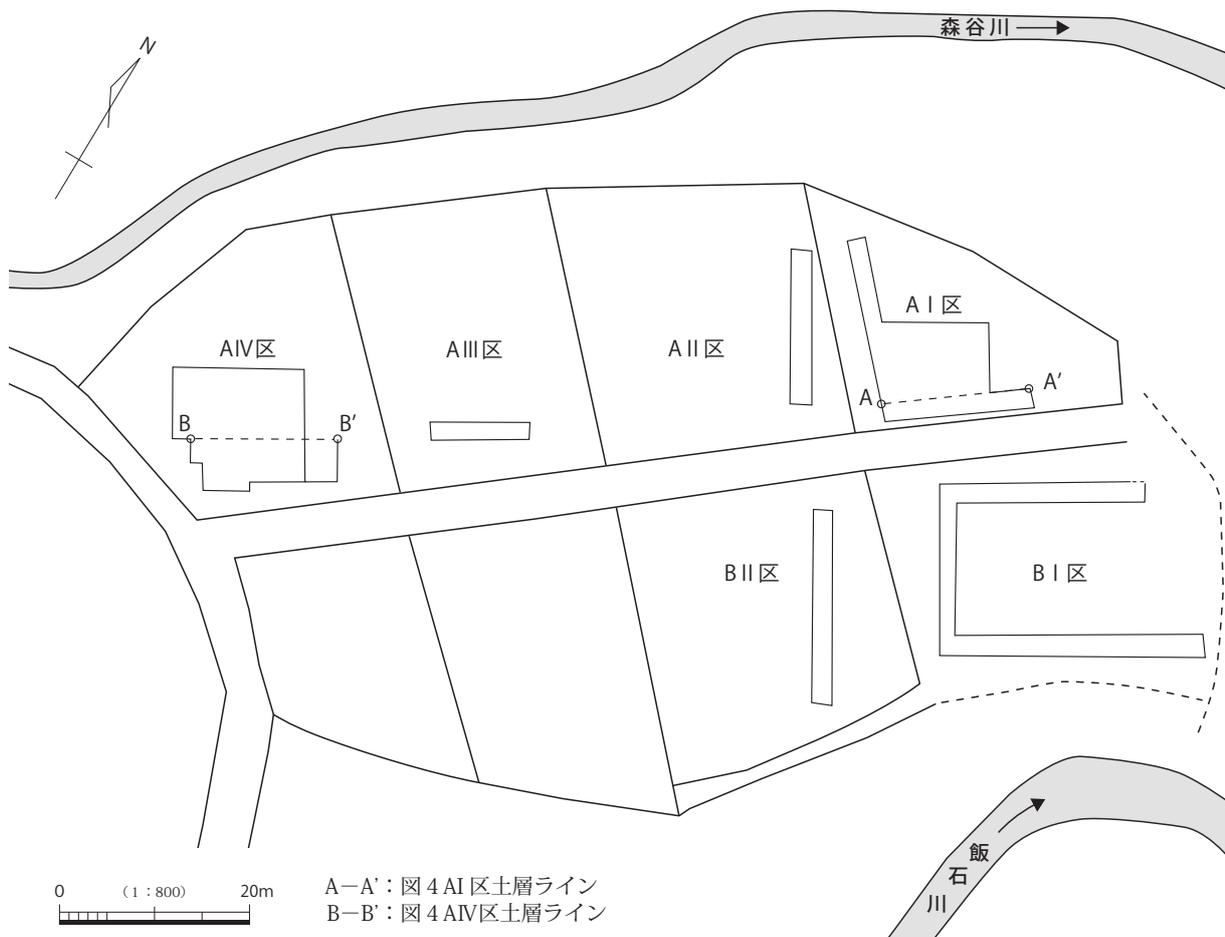


図3 宮田遺跡の調査区配置図

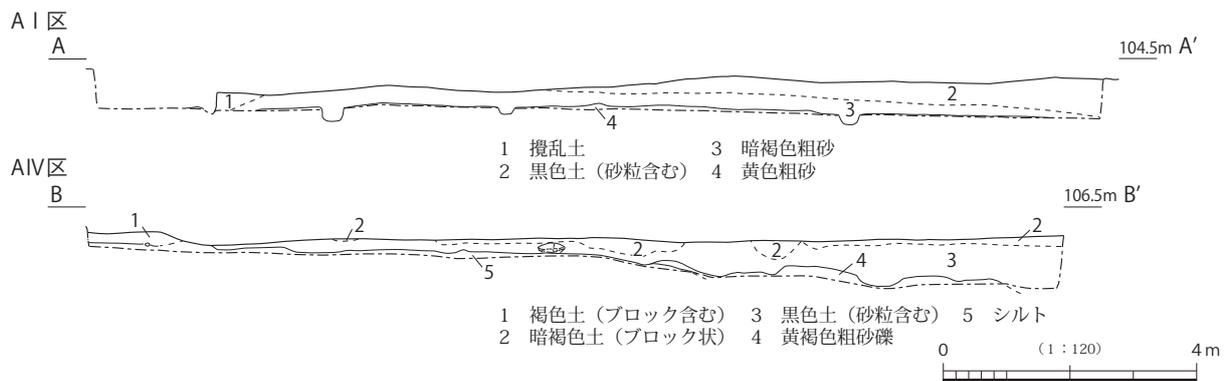


図4 A I区・AIV区の土層堆積状況

委員会が所蔵している各遺構の出土土器を整理することで、A IV区全体の遺構配置および多くの遺構の帰属時期が確認できた。また杉原草稿のほか、日本考古学年報（1979年度版）にもIV区の遺構の概要が報告されており（杉原 1982）、その内容も参照して検討する。

A IV区の調査面積は約 180 m²であり、調査区中央に土器埋設遺構が設けられ、その周辺からは多数の

表 1 各調査区の出土土器集計表

	縄文土器		弥生土器・土師器		須恵器		合計	
	重量 (g)	割合 (%)	重量 (g)	割合 (%)	重量 (g)	割合 (%)	重量 (g)	割合 (%)
I 区	945	24.7	2,355	61.5	535	14.0	3,835	100.0
II 区	3,475	50.1	2,510	36.2	960	13.9	6,945	100.0
III 区	1,090	92.4	70	6.0	20	1.7	1,180	100.0
IV 区	51,225	95.2	300	0.6	2,320	4.4	53,845	100.0
合計	56,735	86.3	5,235	8.0	3,835	5.9	65,805	100.0

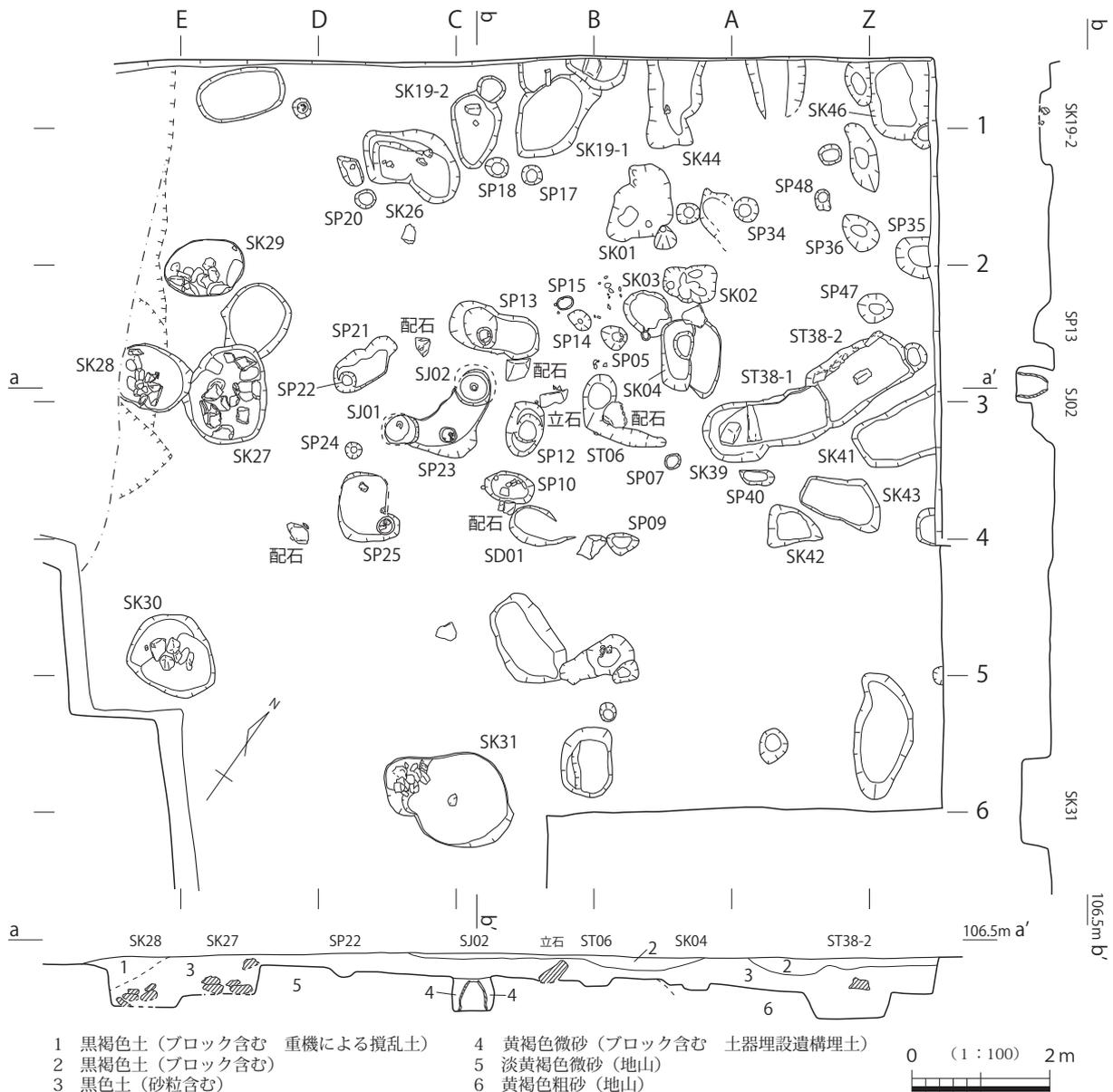


図 5 A IV区遺構平面図・土層図・断面図

表2 遺構名および出土土器一覧

新遺構名 (本報告)	旧遺構名 (調査時)	グリッド 位置	種類	時期	出土土器	備考
SK03	P3	A2	土坑	中期中葉	船元Ⅱ～Ⅲ式3・粗製無文2	
SK27	P27	D2・D3	貯蔵穴	中期後葉?	—	SK28との重複関係から時期推定
SK28	P28	E2	貯蔵穴	中期後葉	里木Ⅱ式4・粗製無文6	
SK29	P29	D1・D2	貯蔵穴	中期後葉	里木Ⅱ式1・粗製無文(巻貝粗調整)1・粗製無文9	
SK30	P30	D4・E4	貯蔵穴	中期後葉	里木Ⅱ式8	
SK31	P31	B5・C5	貯蔵穴	中期後葉	里木Ⅱ式32・粗製無文27	
SK39	P39	A3・Z3	土坑	中期末	中期末土器1・粗製無文21	
SK42	P42	Z3	土坑	中期末	中期末土器1・粗製無文4	
SK01	P1	A1	土坑	後期初頭	粗製無文126	A1土坑内出土土器(図33-159)から時期推定
ST06	P6	A2・A3	配石土坑	後期初頭	九日田式1・粗製無文(巻貝粗調整?)1・粗製無文12	
SJ01	埋甕1号	C3	土器埋設遺構	後期前葉	幕地式2・成立期緑帯文土器2・沈線文1・精製無文1・粗製無文72	
SJ02	埋甕2号	B2	土器埋設遺構	後期前葉	精製無文3・粗製無文32	
SP10	P10	B3	土器埋設遺構 関連柱穴	後期前葉	崎ヶ鼻1～2式1・沈線文1・精製無文2・粗製無文(巻貝粗調整)2・粗製無文101	
SP13	P13	B2	土器埋設遺構 関連柱穴	後期前葉	里木Ⅱ式1・縄文1・沈線文3・刻目文1・精製無文1・粗製無文(巻貝粗調整)1・粗製無文62	
SP21	P21	C2	土器埋設遺構 関連柱穴	後期前葉	縄文2・粗製無文15	SP22と一体
SP22	P22	C2	土器埋設遺構 関連柱穴	後期前葉	—	SP21と一体
SP23	P23	B3・C3	土器埋設遺構 関連柱穴	後期前葉	里木Ⅱ式1・刻目文1・粗製無文(巻貝粗調整)7・粗製無文99	
SP25	P25	C3	土器埋設遺構 関連柱穴	後期前葉	粗製無文(巻貝粗調整)1・粗製無文45	
SK02	P2	A2	土坑	後期前葉	崎ヶ鼻1式1・桂見1式1・粗製無文1	
SK04	P4	A2	土坑	後期前葉	粗製無文(巻貝粗調整)1・粗製無文6	
SK19-1	P19	B0・B1	土坑	後期前葉	九日田式1・崎ヶ鼻1～2式3・小池原上層式2・沈線文1・刻目文1・刺突文1・精製無文4・粗製無文(巻貝粗調整)4・粗製無文103	
SK26	P26	C1	土坑	後期前葉?	精製無文8・粗製無文(巻貝粗調整)1・粗製無文2	遺物ラベル・袋記載内容などから遺構同定
SK32	P32	Z0?	土坑?	後期前葉	崎ヶ鼻1～2式1・精製無文4・粗製無文(巻貝粗調整)3・粗製無文63	調査区外?(位置不明)
SK46	P46	Y0	土坑	後期前葉?	縄文1・精製無文1・粗製無文(巻貝粗調整)1・粗製無文15	
SP12	P12	B3	柱穴	後期前葉?	精製無文2・粗製無文2	
SP14	P14	B2	柱穴	後期前葉?	縄文1・沈線文1・精製無文1・粗製無文(巻貝粗調整)1・粗製無文41	
SP20	P20	C1	柱穴	後期前葉?	精製無文1・粗製無文2	
SP24	P24	C3	柱穴	後期前葉?	粗製無文(巻貝粗調整)2・粗製無文3	
SD01	P10隣溝	B3	溝	後期前葉?	里木Ⅱ式2・沈線+刻目文1・粗製無文(巻貝粗調整)1・粗製無文121	
ST38-1	P38	Z3	配石土坑	晩期中葉～後葉?	粗製無文7	配石墓?
ST38-2	P38'	Y2・Z2	配石土坑	晩期中葉～後葉?	—	木棺痕跡を持つ配石墓?
SK41	P41	Y3	土坑	晩期中葉～後葉	沖丈式1・桂見1式1・精製無文1・粗製無文(巻貝粗調整)3・粗製無文33	土坑墓?
SK43	P43	Z3	土坑	晩期中葉～後葉?	粗製無文6	土坑墓?
SK19-2	P19'	B0・B1	土坑	後～晩期	粗製無文(巻貝粗調整)1・粗製無文11	
SK44	P44	A0	土坑	後～晩期	—	
SP09	P9	A3・A4	柱穴	後～晩期	沈線文1・粗製無文7	
SP35	P35	Y1・Y2	柱穴	後～晩期	粗製無文3	
SP40	P40	Z3	柱穴	後～晩期	粗製無文1	
SP47	P47	Y2・Z2	柱穴	後～晩期	粗製無文6	
SP48	P48	Z1	柱穴	後～晩期	粗製無文3	
SP05	P5	A2	柱穴	後～晩期?	—	
SP07	P7	A3	柱穴	後～晩期?	—	
SP15	P15	B2	柱穴	後～晩期?	—	
SP17	P17	B1	柱穴	後～晩期?	—	
SP18	P18	B1	柱穴	後～晩期?	—	
SP34	P34	Z1	柱穴	後～晩期?	—	
SP36	P36	Y1・Z1	柱穴	後～晩期?	—	
—	P11	B3	土坑?	後～晩期?	—	遺構の可能性低い?
—	P16	B1	土坑?	後～晩期?	—	遺構の可能性低い?
—	P37	Z1・Z2	土坑?	後～晩期?	沈線文1・精製無文1・粗製無文43	遺構の可能性低い?
—	P8	A3	柱穴?	後～晩期?	—	遺構の可能性低い?

※出土土器の数字は出土点数を示す

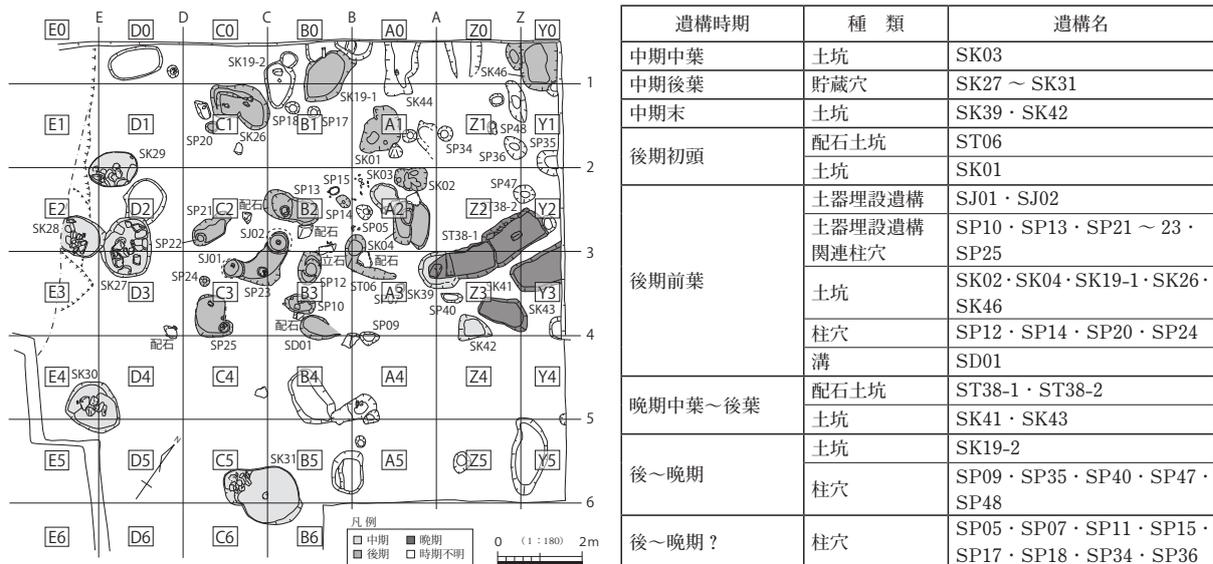


図6 A IV区調査グリッドと遺構の時期

遺構が見つかった(図5)。また表2にて今回確認できた遺構の情報を整理した。遺構名については、調査当時の遺構名(旧遺構名)と今回新たに設定した遺構名(新遺構名)との対応関係を示したが、両者の対応がとりやすいように、遺構の番号は基本的に調査当時の番号を採用した。本報告では、遺構の帰属時期を明らかにするため、表2の内容を参照しつつ、遺構の特徴や遺構出土土器について時期別に報告する。なお、出土土器の詳細情報は、稿末の土器観察表(表3～7)にて記した。

A IV区の調査では1区画2m四方の調査グリッドが設定されており(図6)、遺物がどの地点で出土したのかを把握することができる。なお、調査区の遺構配置を確認すると、西側から南側には主に中期後葉の遺構、調査区中央から北側には後期初頭～前葉頃の遺構が集中するほか、調査区東側には晩期中葉～後葉と考えられる遺構が認められるなど、時期ごとに空間的な展開の様相が異なっていることが分かる。こうした遺構の時期的な変遷は、5節で詳しく検討する。

(2) 中期の遺構と出土土器(図7～10)

①中期中葉(図7)

SK03は調査区中央北寄りのA2グリッドで見つかった円形の土坑であり、中期の土器(図7)が出土している。これらの土器は比較的薄い器壁を持ち、内面が丁寧なナデで仕上げられて外面に節の大きなRL縄文を施文することから、中期中葉の船元Ⅱ～Ⅲ式頃の所産と考えられる。そのため、SK03の形成時期は中期中葉頃に比定でき、宮田遺跡のなかで古い時期の遺構に位置づけられる。この時期の他の遺構はSK03の周辺に存在した可能性があるが、周りには後期の遺構が多数設けられているため、中期中葉以降に削平されたと考えられる。

②中期後葉(図8～10)

調査区の南側には、集石を伴う袋状の大型土坑群(SK27～31)が確認できる。これらの土坑群は土坑内部の底面付近に人頭大の礫が複数存在するほか、土坑の壁面が垂直気味に立ち上がる(図8)。また杉原草稿において、複数の土坑で常時底面に地下水が滞留することや、底面付近の黒色土が有機物の炭化による可能性が示唆されていることなどを勘案すると、これらの土坑は貯蔵穴であると考えられる。

SK28～31内からは中期土器がまとめて出土しており(図9・10)、その多くが外面に撚糸文を施すほか、キャリパー形の器形を持ち、沈線で横位展開の文様を施す深鉢(15)も認められることから、里木Ⅱ式の範疇で捉えられる。そのため、貯蔵穴と考えられる大型土坑群は中期後葉頃に比定できる⁽⁵⁾。これらの里木Ⅱ式は、船元Ⅱ～Ⅲ式頃の土器に比べて器壁が厚い個体が多い。なお、貯蔵穴内の出土土器

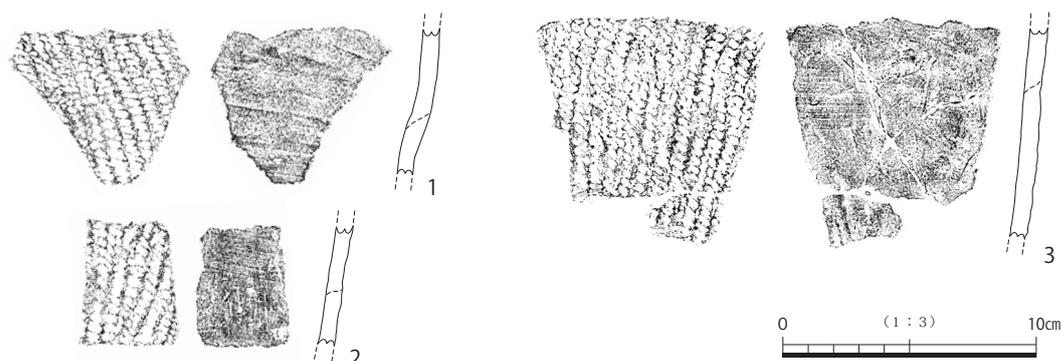


図7 中期中葉の遺構出土土器 (SK03)

には後～晩期の粗製土器も少数ながら含まれており、斐伊川中流域遺跡群の調査事例を踏まえると、中期後葉の貯蔵穴は、配石墓や土坑墓として転用された可能性が考えられる⁽⁶⁾。

③中期末 (図 11-36・37)

調査区南側にまとまっていた中期後葉の貯蔵穴群とはやや離れるが、調査区北東側に中期末頃と考えられる土坑が複数確認できる。SK39は円形の土坑であったと推定され、後述する晩期の配石土坑(ST38-1)の設営などによって削平されたと考えられる。SK42は不整形な小形の土坑である。各遺構からは中期末から後期初頭に盛行する比較的幅の広い沈線で中期末に特徴的な横位展開の文様構成を表現する土器が出土した(36・37)。36は地文に無節のL縄文を施している。

(3) 後期の遺構と出土土器

①後期初頭 (図 11-38)

SK01およびST06がこの時期に比定できる。SK01は明確な時期が分かる出土土器が確認できないものの、SK01が配置されたA1グリッドの土坑内出土として記録されている五明田式(図 33-159)がSK01に帰属する可能性があるため、ここでは後期初頭頃の所産であると推定した。ST06は溝状の施設および比較的大型の礫を伴う不整形の配石土坑である。明確な時期は判然としないが、中津式併行期の九日田式と思われる文様を持つ沈線文土器(38)や粗製土器が出土しており、後期初頭頃の遺構であると推定される。

②後期前葉 (図 12～31)

後期前葉は複数の土坑や柱穴のほか、土器埋設遺構およびその関連柱穴群が見つかっており、全時期を通して最も多くの遺構が確認された。そのため後期前葉の遺構については、種類ごとに個別に取り上げて検討を行うことにする。

土器埋設遺構 (SJ01・SJ02) (図 12～17)

調査区中央では土器埋設遺構が2基見つかっている⁽⁷⁾。南側がSJ01、北側がSJ02であり、前者に伴う埋設土器をSJ01埋設土器、後者における埋設土器をSJ02埋設土器と呼称する。SI01・SJ02埋設土器はともに倒立した逆位の状態で埋置されていた(図 12・13)。

周辺の土層堆積状況および土器埋設状況(図 13)を見ると、地山を掘り込んで土坑を2基設け、そこに深鉢を逆位で埋設している。またSJ01・SJ02埋設土器はともに底部穿孔がみられ、SJ02埋設土器の底部は欠損している。逆位で埋設されたSJ01・SJ02埋設土器は、口縁部が土坑床面に接しており、埋設土器内部の床面から15cm程度の厚さで堆積する微砂上には縄文土器や礫などが認められる。その上には縄文土器などを含んだ黒褐色土や黒色土が確認されている。底部穿孔や欠損が認められるため、上部の土砂や遺物は底部から流入したと考えられるが、SJ01・SJ02埋設土器ともに概ね同じ高さで内部底面に微砂層が存在することや、その上面付近から遺物や石材が確認されている点を勘案すると、微砂層は

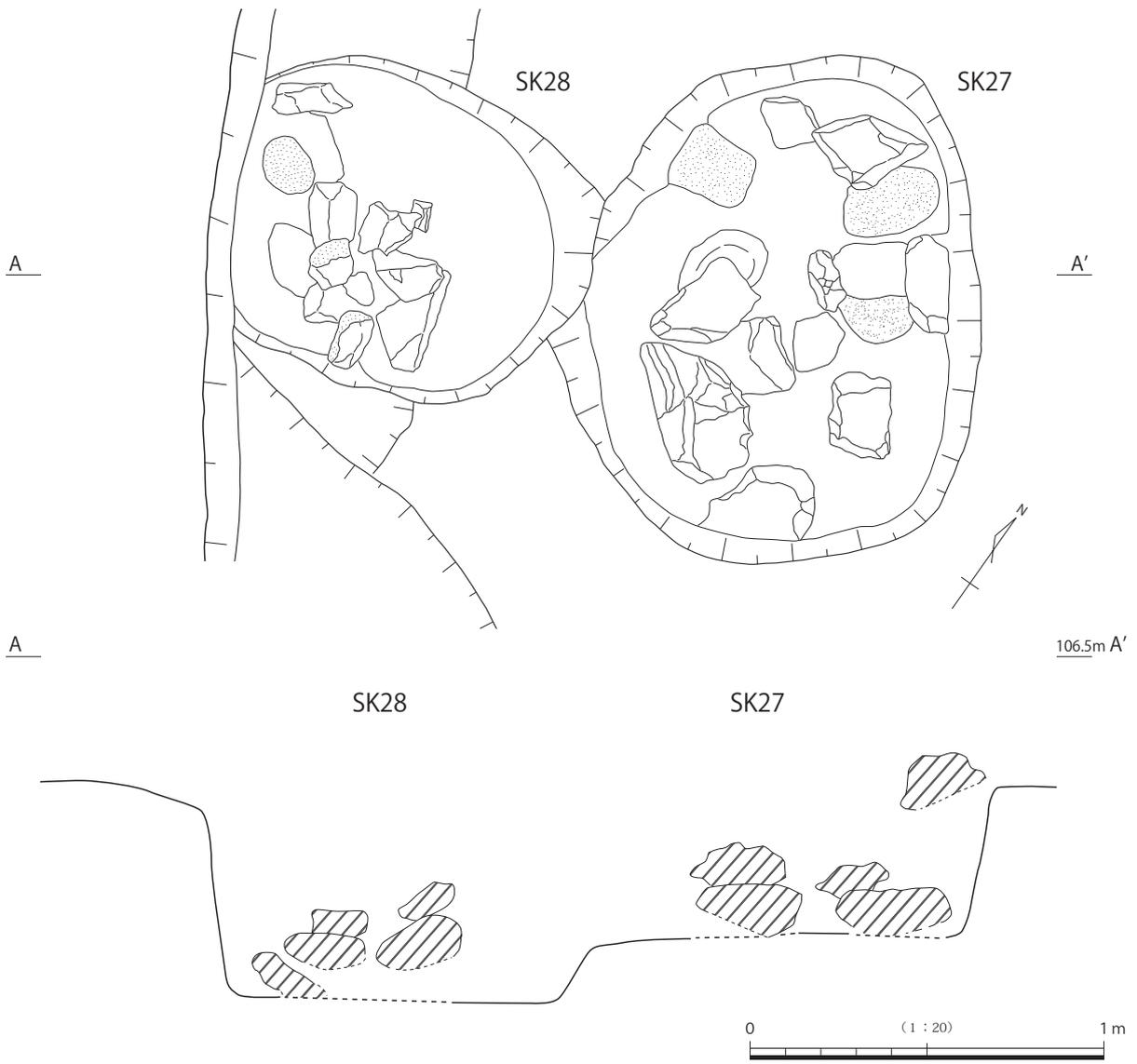


図8 中期後葉の貯蔵穴 (SK27・SK28) 平面図・断面図

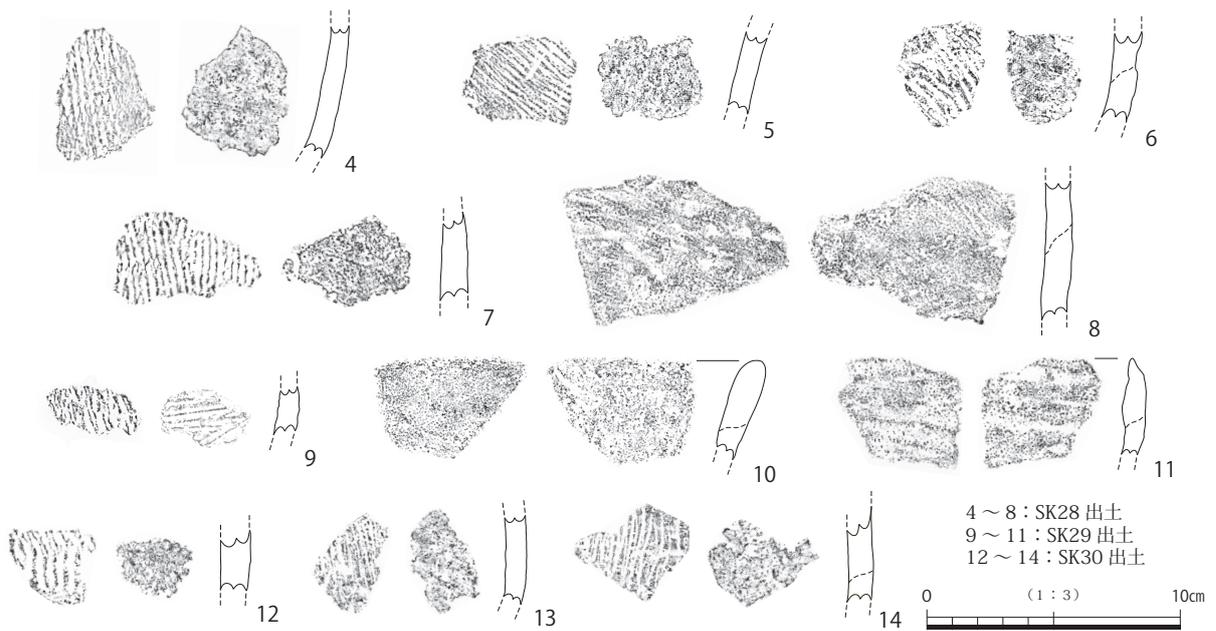


図9 中期後葉の遺構出土土器1 (SK28・SK29・SK30)

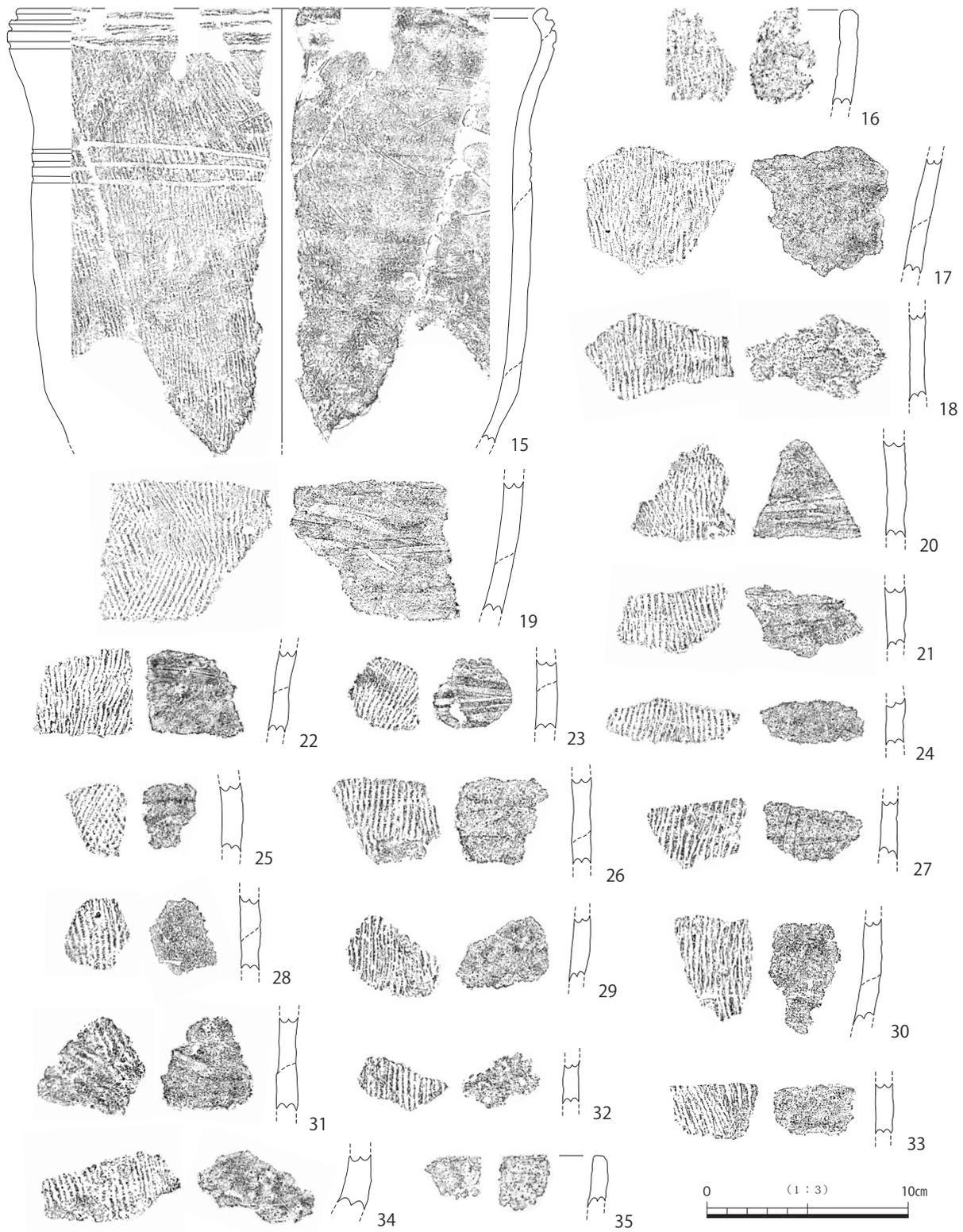


図10 中期後葉の遺構出土土器 2 (SK31)

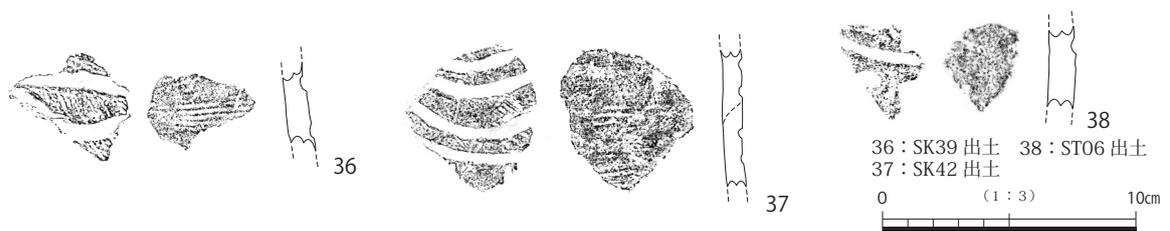


図11 中期末～後期初頭の遺構出土土器 (SK39・SK42・ST06)

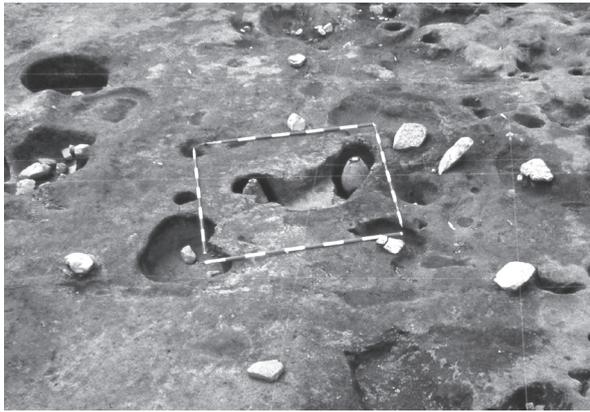


图 12 土器埋設遺構 (SJ01・SJ02) 周辺 (左) と検出状況 (右) (南東から)

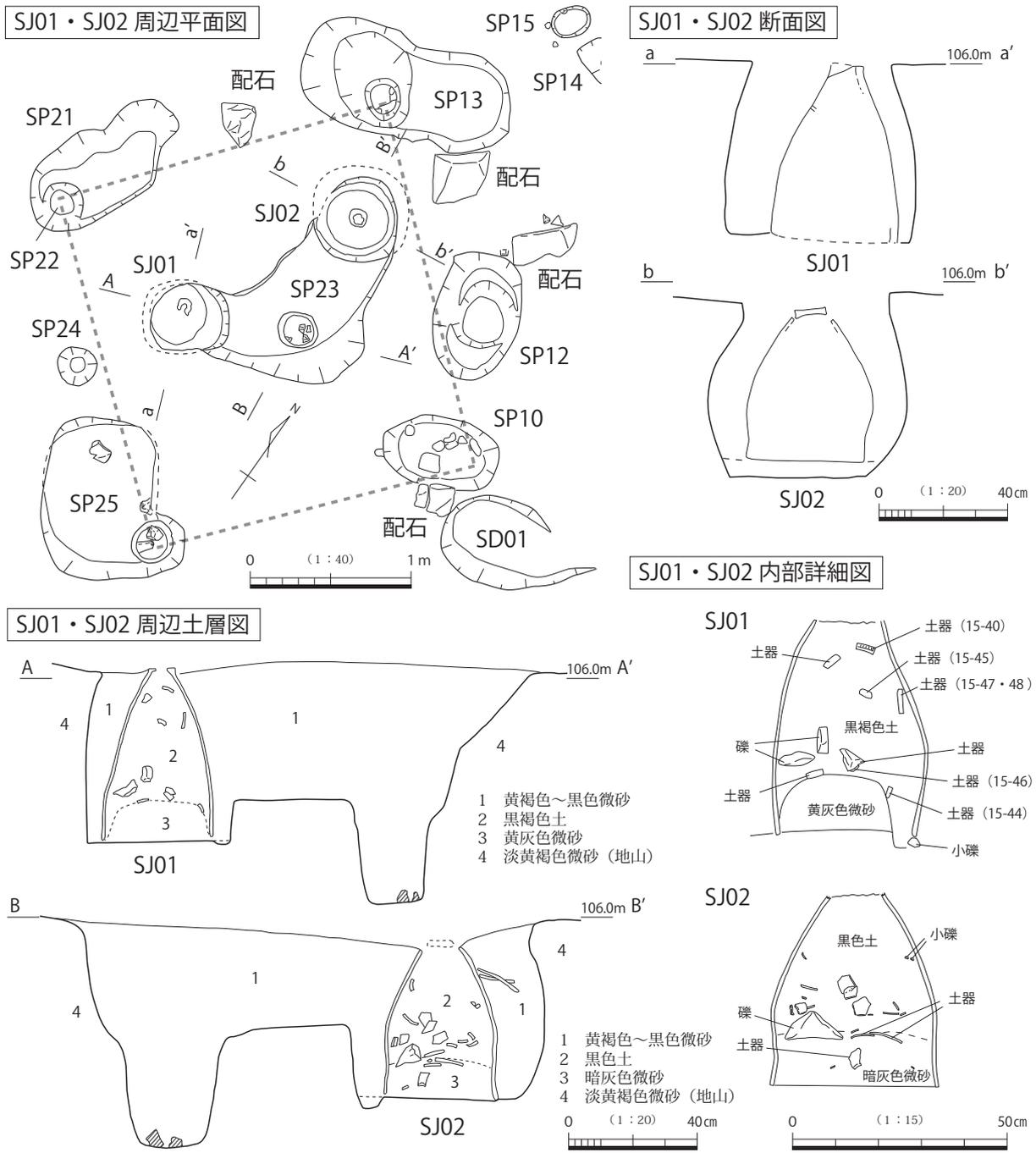


图 13 土器埋設遺構 (SJ01・SJ02) 周辺平面図・土層図・断面図・内部詳細図

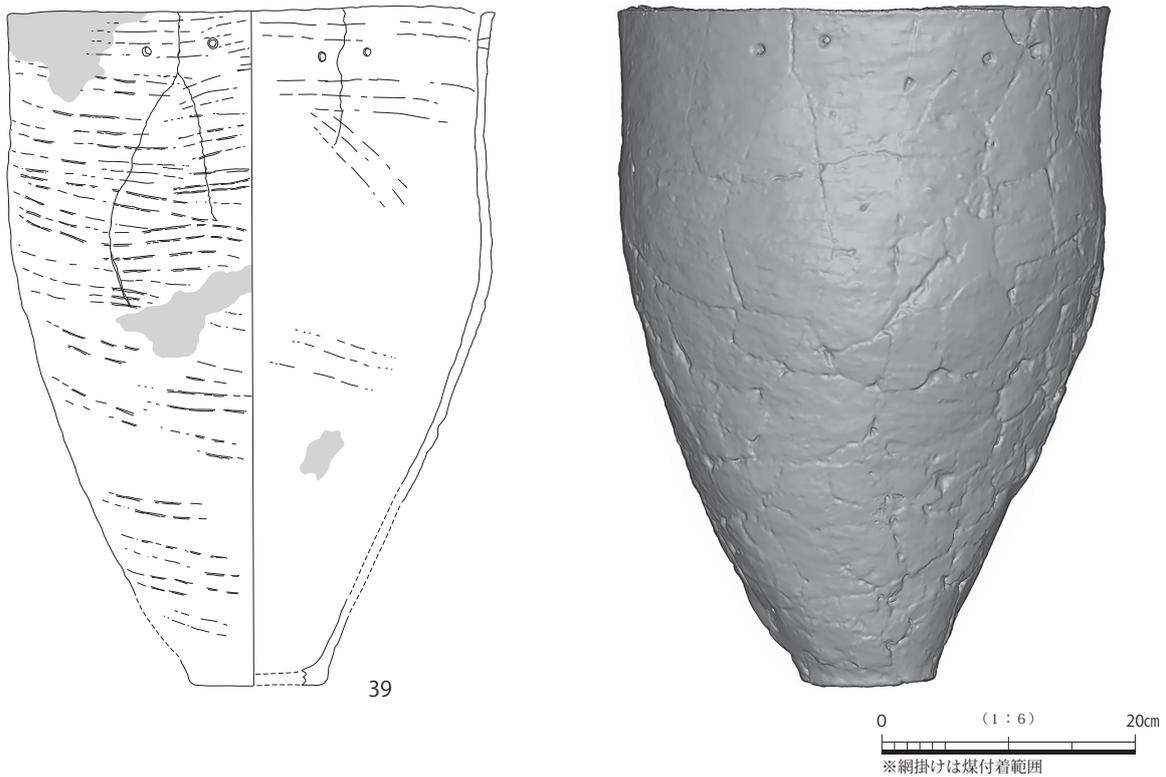


図 14 SJ01 埋設土器・3D モデル画像

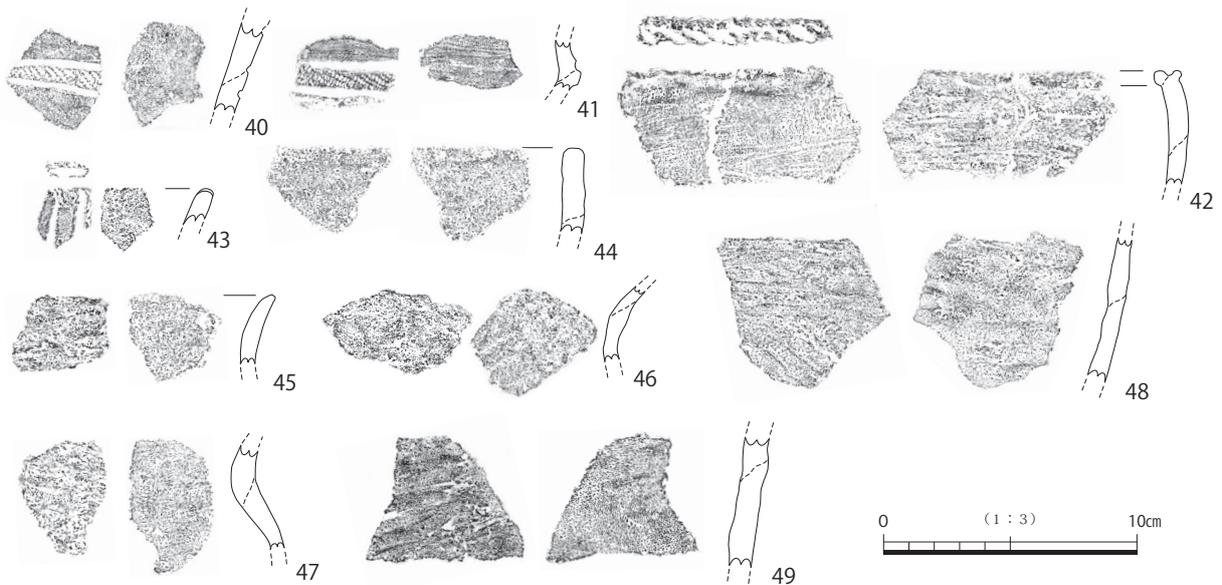


図 15 SJ01 埋設土器内出土土器

SJ01・SJ02 の構築に伴って意図的に形成された可能性が想定される。なお、調査図面や記録写真などから埋設土器内部の出土位置が確認できた土器には、図 13 右下の内部詳細図で掲載番号を示した。

また、埋設土器内部の土壌を対象にリン分析が実施されてリンが検出されており、土器埋設遺構が埋葬施設に関連した可能性を示唆するが、周辺土壌との比較が明瞭でないため判断が難しい⁽⁸⁾。

埋設土器は地山である微砂の掘削土で埋納されたと考えられ、その上面には土器埋設遺構の周辺約 4m の範囲を中心に 10～15cm の厚さで縄文土器が集積していたとされる（杉原 1982）。図 5 の遺構周辺の土層堆積状況などから検討すると、遺構は火山性の黒色土の堆積以前に地山を掘削して形成されており、土器埋設遺構の構築時期は、三瓶山太平山火山灰が降下した約 4,000 年前の後期前葉における崎ヶ鼻 2 式期以前であることが確認できる。

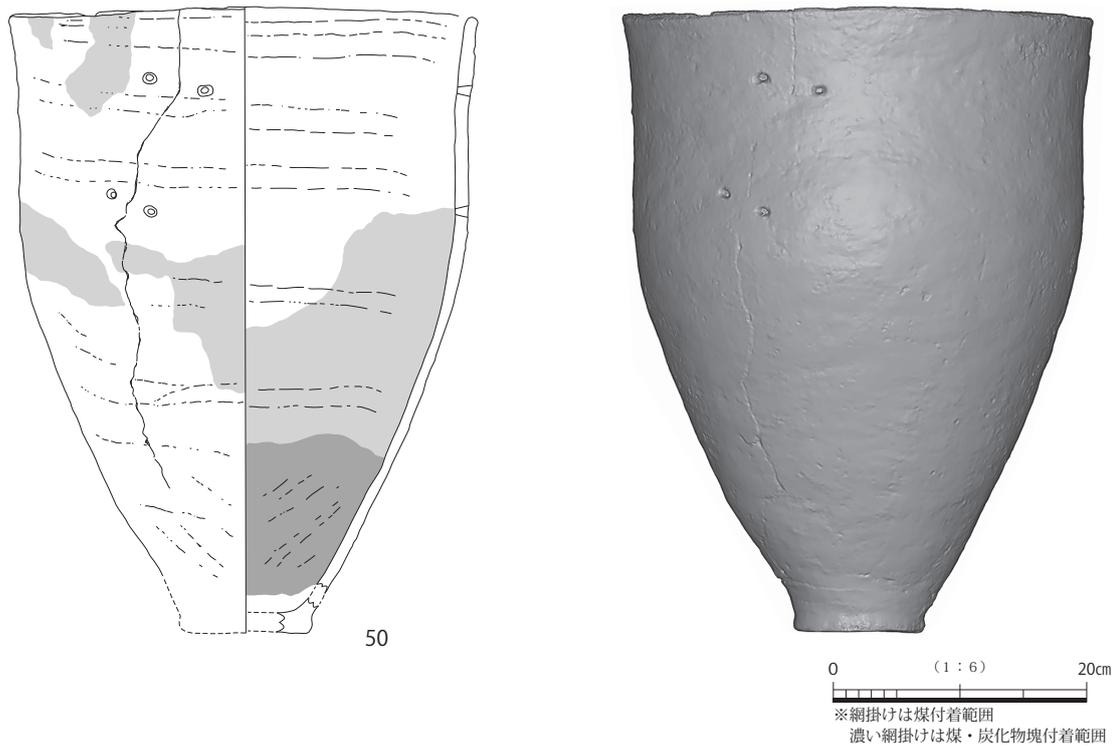


図 16 SJ02 埋設土器・3D モデル画像

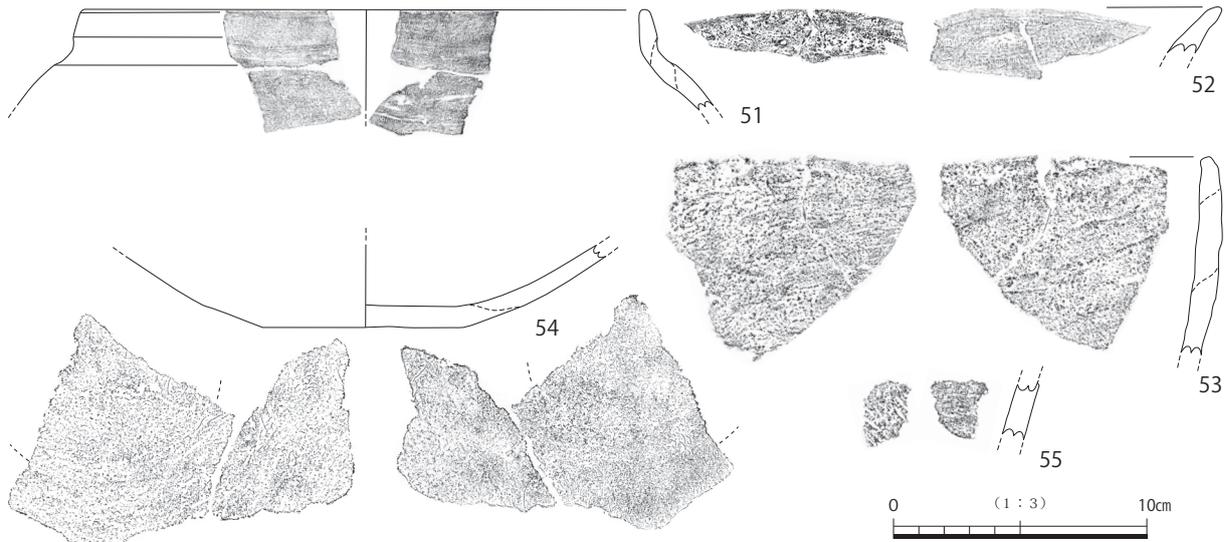


図 17 SJ02 埋設土器内出土土器

SJ01 埋設土器 (39) は、法量が口径約 38.9cm、胴径約 37.5cm、高さが約 52.8cm となる無文の深鉢である⁽⁹⁾。外面に粗い条痕調整が意図的に施されるのが特徴的である。これはウミナなどの巻貝を縦位または横位に使用して粗い条痕を施す器面調整で、鳥根地域の後期に特有の器面調整である (柳浦 2014)。この器面調整手法は、二枚貝による条痕調整が多数を占める後期初頭の粗製土器にはほとんど認められず、この地域の後期前葉頃に特徴的な粗製土器の内面肥厚指頭圧痕土器 (千葉 2014) の主要な器面調整である⁽¹⁰⁾。なお、埋設土器内部に流入したとみられる黒褐色土出土土器 (図 15) には、後期初頭の暮地式の鉢や浅鉢 (40・41) および後期前葉の成立期縁帯文土器の深鉢 (42・43) などが認められる。よってこれまでに確認した埋設土器の特徴や内部出土の土器の様相を総合すると、SJ01 埋設土器は後期前葉頃に比定できる。また、補修孔が口縁部に 3 箇所、胴部に 2 箇所確認されているほか、内外面に炭化物が付着しているため、土器埋設遺構として利用される以前には、日常的な煮炊きに使用されていた深鉢

であった蓋然性が高いと考えられる。

SJ02 埋設土器 (50) は、法量が口径約 37.0cm、胴径約 35.5cm、高さ約 48.5cm の無文の深鉢で、SJ01 埋設土器よりも若干小さい。また器面調整は、丁寧なナデ調整で平滑に整えられており、SJ01 埋設土器とは器面調整の仕上げが異なっている。埋設土器内部に黒色土とともに流入した土器 (図 17) のなかで確実に時期が判定できるものは少ないが、器面内外を丁寧なミガキで仕上げ、後期前葉に多い特徴的な形態を持つ鉢 (51) が出土しているため、SJ02 埋設土器も SJ01 埋設土器と同様に後期前葉頃の所産であると考えられる。また、補修孔が口縁部から胴部にかけて 2 箇所 に設けられ、内外面に炭化物が付着する状況は SJ01 埋設土器と類似しており、特に内面底部付近に炭化物の塊が目立つ。日常的な煮炊き用の深鉢として使用された後に土器埋設遺構に転用されたと想定される。

土器埋設遺構関連柱穴群 (SP10・SP13・SP21～23・SP25) (図 18～22)

2 基の土器埋設遺構 (SJ01・SJ02) 周辺には、遺構の中央のほか、遺構を囲うように柱穴群が設けられている。このうち中央に位置する SP23 は、比較的深く掘り込まれた柱穴を内部に持つ⁽¹¹⁾。SP23 は 2 基の埋設土器を埋納するために掘り込まれたと考えられ、図 13 左下の土層堆積状況に目を向けると、SP23 内部は 2 基の土器埋設遺構と同様に微砂が遺構上面まで堆積しており、同じ時期に埋没した可能性が高い。中央の柱穴の内部には礫が認められ、柱の根固め石であったと推測される。また SP23 から出土した土器 (図 18) は、無文土器が中心となっているが、後期前葉頃に特徴的な巻貝条痕による粗い器面調整がなされたものが出土している (56・66)。なお 56 は、SJ01 埋設土器に沿って埋設されており、土器埋設遺構に伴う施設の一部であった可能性も考えられる。

土器埋設遺構の周囲には 4 基の柱穴 (SP10、SP13、SP21 および SP22、SP25) が確認されている。多くは不整形の掘り込み内部に柱穴が設けられており、柱穴の直径は概ね 17～27cm、深さは 60～70cm 程度で、内部には根固め石が存在する。これらの柱穴からの出土土器 (図 19～22) は、無文土器が大半を占めるが、SJ02 埋設土器内出土の後期前葉の鉢 (図 17-51) と共通の形態を持つ SP10 出土の鉢 (70) や、後期初頭の暮地式から後期前葉の成立期縁帯文土器に比定できる SP13 出土の精製の皿形浅鉢 (84)、巻貝条痕による粗い調整を器面に施す SP25 出土の無文土器 (103) などが確認でき、土器埋設遺構と同時期頃に形成された蓋然性が高い。

これらの柱穴群 (SP10・SP13・SP21 および SP22・SP25) は、中央部の SP23 を中心として土器埋設遺構を囲むように一辺約 2.2m 前後の四角形状に配置されているため、土器埋設遺構に伴う 5 本柱の上部構造を持ち、視覚的に訴求する構造物であった可能性が指摘されている (山田 1999・2001・2010)。今回の報告でも土層堆積状況や出土土器などから土器埋設遺構と同時期頃の遺構であることを確認したため、土器埋設遺構に関連する柱穴群であると考えられる。

また土器埋設遺構と関連柱穴群の周辺には、一抱えもある立石や配石が土器埋設遺構を囲うように複数配置されており、この場が後期前葉において祭祀的な場として利用されていた可能性を示唆する。

土坑 (SK02・SK04・SK19-1・SK26・SK46)・柱穴 (SP12・SP14・SP20・SP24)・溝 (SD01) (図 23～31)

土器埋設遺構 (SJ01・SJ02) や関連柱穴群 (SP10・SP13・SP21 および SP22・SP23・SP25)、立石・配石群の外側付近においては、複数の土坑 (SK02・SK04・SK19-1・SK19-2・SK26・SK46) が確認されている。これらの土坑の詳細な性格は明らかではないが、形状や規模からみて土坑墓の可能性が指摘されている (山田 1999)。そのうちのいくつかの土坑からは、後期前葉頃を中心とした土器 (図 23～27) が出土している。

SK02 では晩期後葉の桂見 I 式の深鉢 (109) が認められ、晩期の遺構である可能性は否定できないも

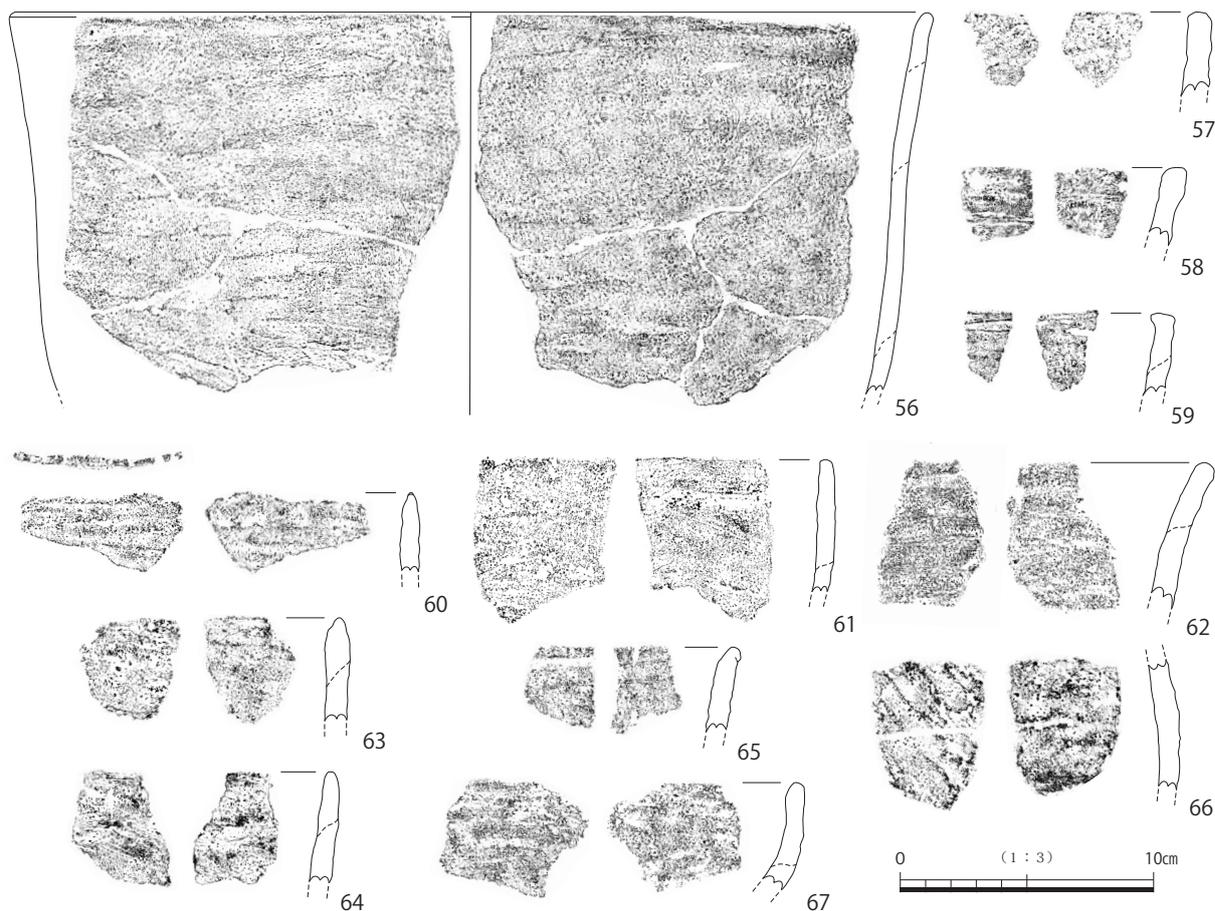


図 18 土器埋設遺構関連柱穴 1 (SP23) 出土土器

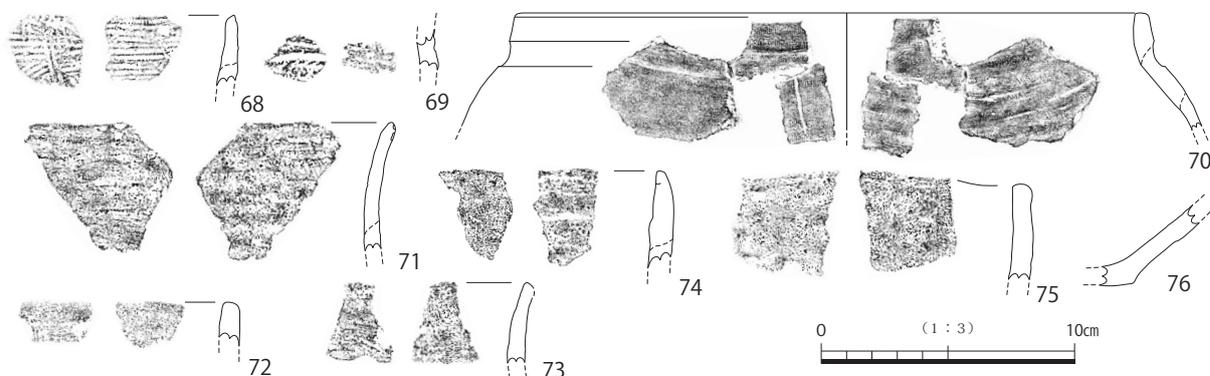


図 19 土器埋設遺構関連柱穴 2 (SP10) 出土土器

の、崎ヶ鼻 1 式期頃の深鉢 (107) が出土していることから、ここでは後期前葉の時期として判断した。SK19-1 では後期初頭の土器 (113・114) がわずかに存在するが、多くの土器は後期前葉頃に比定できる。具体的には、崎ヶ鼻 1～2 式の深鉢や鉢 (115・116・122) のほか、九州系土器の小池原上層式の鉢 (117・118) が認められる。117・118 は RL 縄文の施文後に幅広の浅い沈線で文様を描き、無文部は丁寧なミガキが施されている。縄文帯には赤色顔料が付着しており、蛍光 X 線分析の結果からベンガラである可能性が高いと考えられた⁽¹²⁾。SK04 や SK19-1、SK46 においては、後期前葉頃に特徴的な巻貝条痕による粗い調整を持つ無文土器 (112・126・127・134) が認められる。

土器埋設遺構や関連柱穴群の周辺には、柱穴 (SP12・14・20・24) や溝 (SD01) などが見つかっている。これらの遺構から出土した土器 (図 28～31) は明確に時期が判別できるものは少ないが、後期初頭の暮地式から後期前葉の成立期縁帯文土器に多い精製の皿形浅鉢 (135) や、頸部と胴部の境界が屈曲し

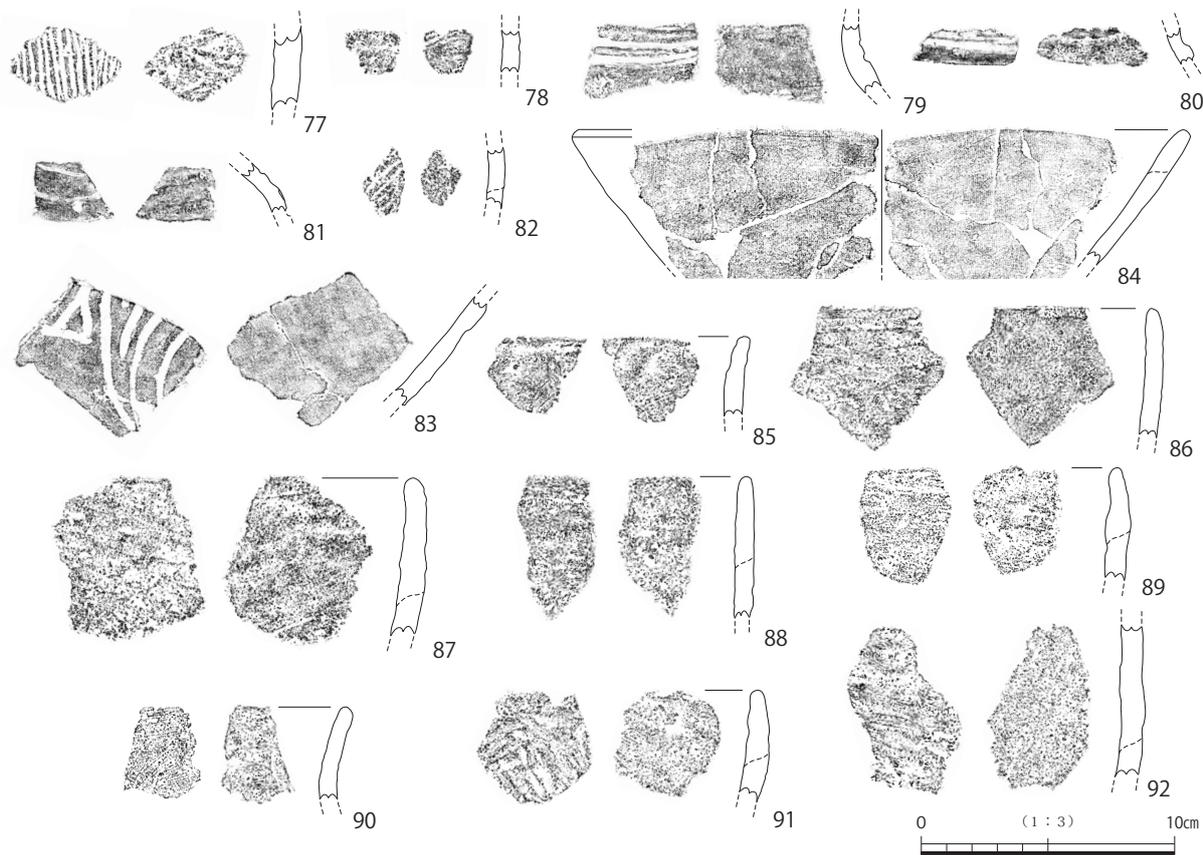


図20 土器埋設遺構関連柱穴3 (SP13) 出土土器

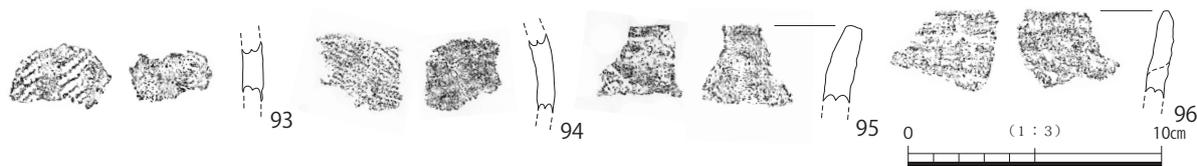


図21 土器埋設遺構関連柱穴4 (SP21) 出土土器

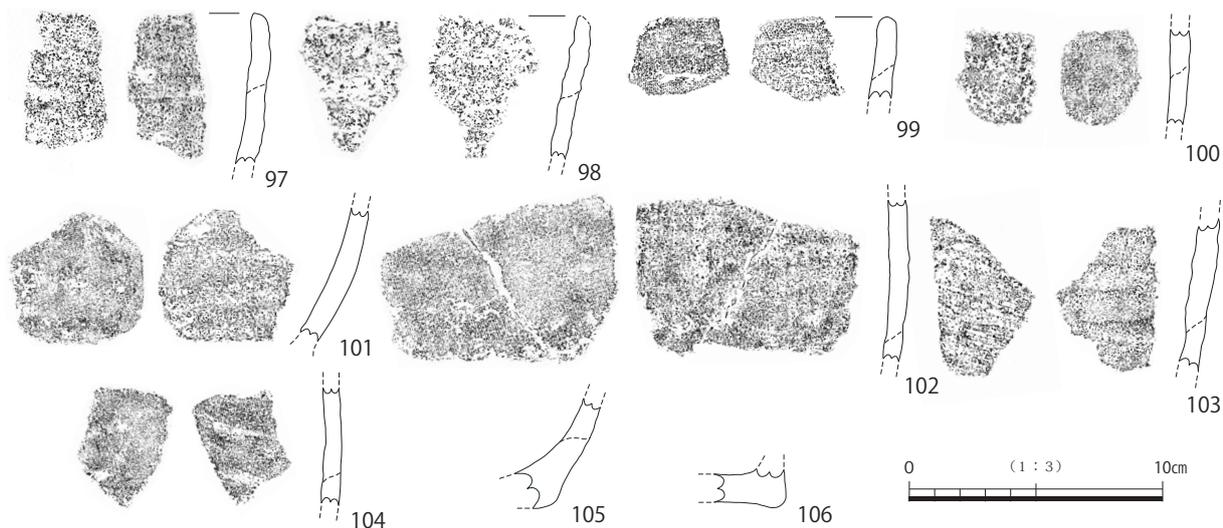


図22 土器埋設遺構関連柱穴5 (SP25) 出土土器

て口頸部が外反する精製の鉢 (136)、巻貝条痕による粗い調整の無文土器 (145・146) が散見され、遺構の時期は概ね後期前葉頃に比定できると考えられる。なお、SP12 および SP24 は土器埋設遺構に近接し、それぞれ土器埋設遺構関連柱穴群の中間地点に設けられていることから、これらの施設に伴う補助柱穴であった可能性も考えられる。



図 23 SK02 出土土器

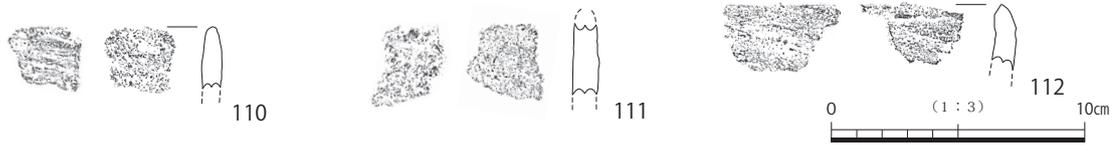


図 24 SK04 出土土器

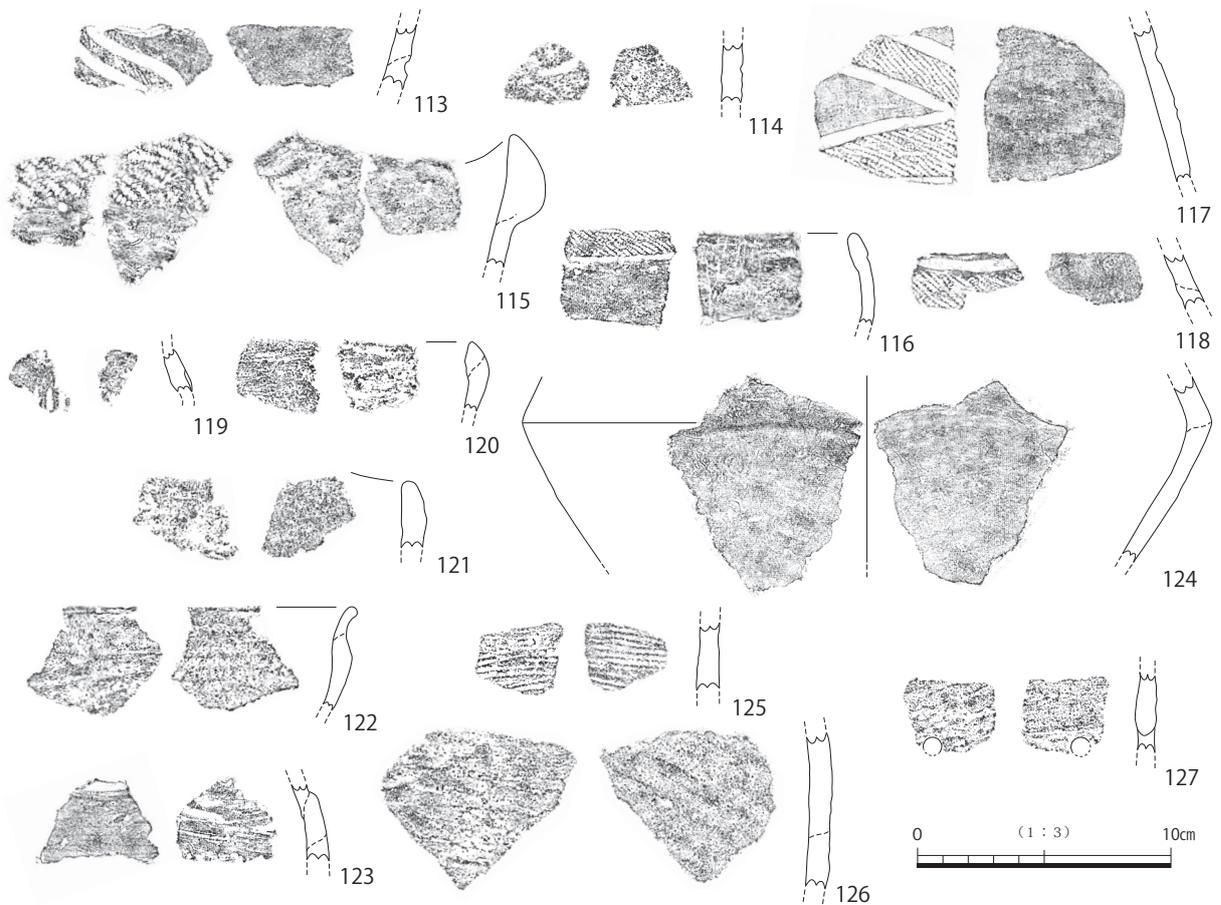


図 25 SK19-1 出土土器

(4) 晩期の遺構と出土土器 (図 32)

調査区東側には南北方向に細長い長方形の平面形を持つ土坑が確認され、そのうち SK41 から出土した土器 (図 32) には、外面に RL 縄文を施文した後期中葉の深鉢 (151) や晩期後葉の桂見 I 式の深鉢 (152) などが確認できる。その他、SK41 に隣接する長方形の配石土坑 (ST38-1、ST38-2) および土坑 (SK43) が注目され、形状や方位などから SK41 に近い時期に形成された可能性が考えられる。ST38-1 および ST38-2 からは時期が確認できる土器は出土していないが、杉原草稿によると、これらは黒色土層中から掘り込まれているとされているため、黒色土下にある土器埋設遺構 SJ01・SJ02 を中心とした後期前葉の遺構よりも新しい時期に形成された可能性が高い。

また ST38-2 の西壁には礫列が配置されており、木棺の側板に沿わせた石材の可能性もある。同様の遺構は斐伊川中流域遺跡群における家の後 II 遺跡 2 区でも確認されており (中川編 2005)、晩期中葉頃

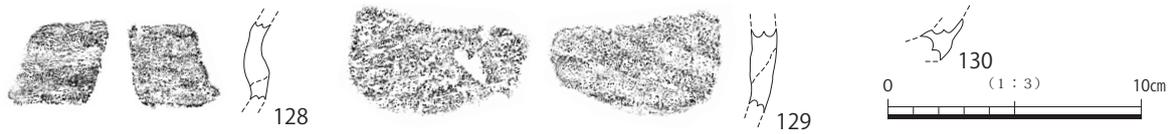


図 26 SK26 出土土器



図 27 SK46 出土土器

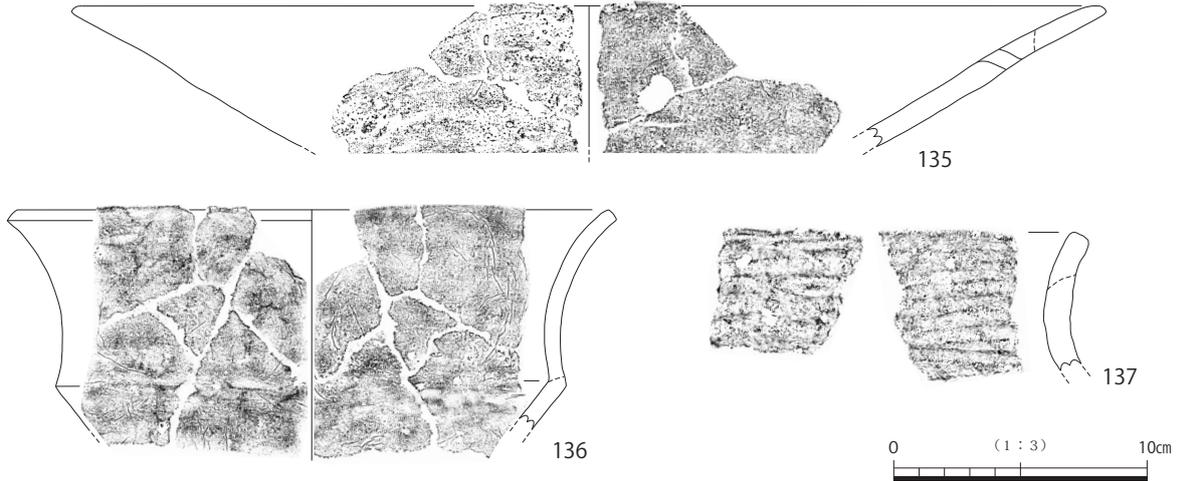


図 28 SP12 出土土器

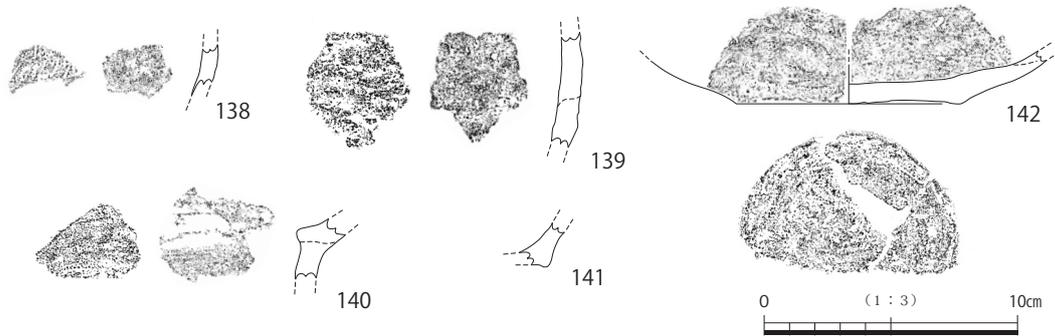


図 29 SP14 出土土器

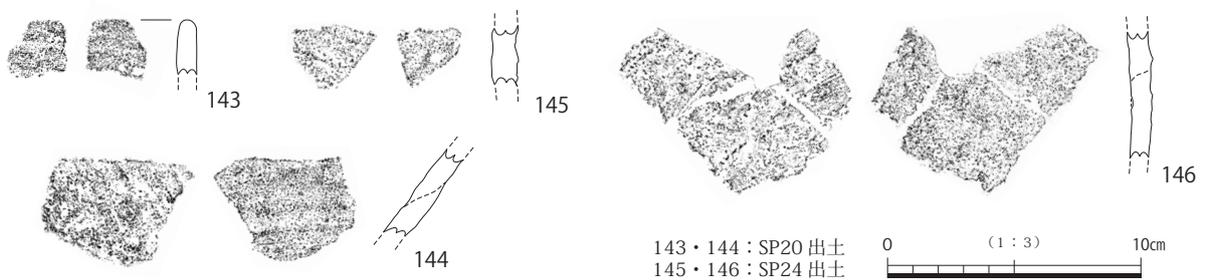


図 30 SP20・SP24 出土土器

の所産であると考えられる⁽¹³⁾。なお明確な木棺痕跡については、大田市の古屋敷 A 区・G 区における晩期後葉の土坑墓で見つかっている（伊藤ほか編 2017、林編 2017）。そのため、宮田遺跡で木棺痕跡を持つ ST38-2 は、晩期中葉～後葉頃に比定できる可能性が考えられる。こうした点を総合すると、これら一連の遺構は、晩期中葉～後葉頃に営まれた配石墓および土坑墓であったと推測される。

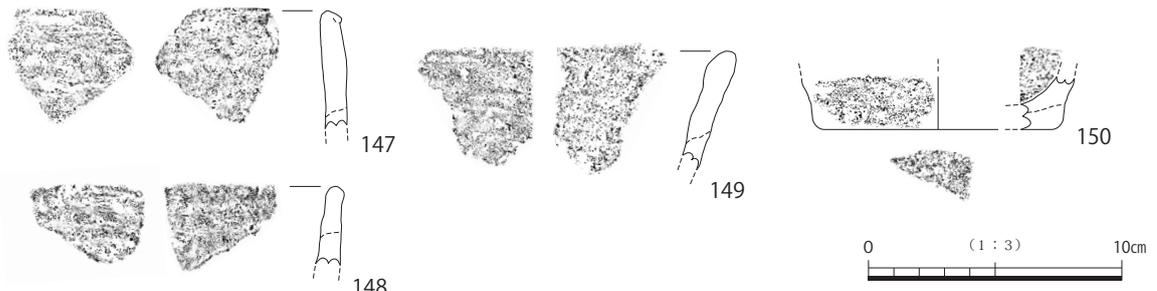


図 31 SD01 出土土器



図 32 SK41 出土土器

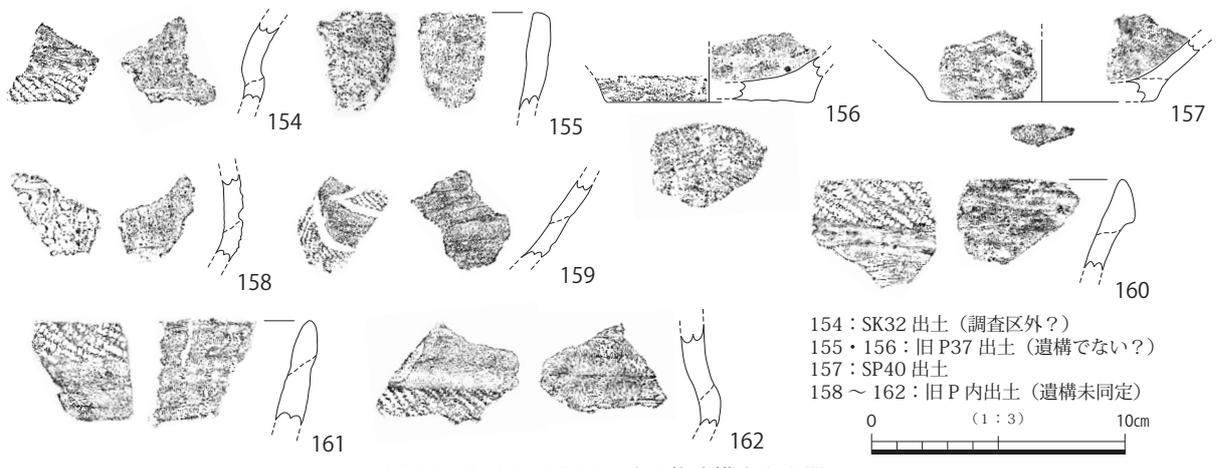


図 33 SK32・SP40・その他遺構出土土器

(5) その他の遺構と出土土器 (図 33)

これまでに確認してきた遺構のほかにも、詳細な時期が確定できないものや、遺構の場所が同定できなかったものが存在する。ここでは、その他の遺構の出土土器とともに内容を確認する (図 33)。SK32 (旧 P32) の位置は調査図面には明確に示されておらず、調査区外の可能性があるが、崎ヶ鼻 1～2 式頃の鉢が出土している (154)。旧 P37 は、Z1～Z2 グリッドに存在する不整形の土坑とみられるが、最終の調査図面では遺構として示されていないため、ここでは出土した土器 (155・156) のみを掲載した。157 は SP40 から出土した後～晩期の浅鉢底部である。その他、遺構から出土したが、遺構の同定ができない土器 (158～162) をみると、概ね後期初頭から前葉頃であるため、これまでに確認してきた後期初頭～前葉の遺構あるいはその周辺の遺構から出土した可能性を示唆する。

(6) 遺構外からの主な出土土器 (図 34～38)

宮田遺跡では、遺構内から一定量の遺物が出土しているが、遺構外からも遺物が比較的まとまって確認されている。ここでは、遺構外から出土した主な縄文土器を取り上げ、時期ごとに整理しながら報告する。なお各土器の詳細な内容は、稿末に掲載した土器観察表 (表 3～7) にて記している。

① 中期土器 (図 34)

中期の土器は遺構外から一定量出土した。内面は丁寧なナデ調整で仕上げ、外面は比較的節の大きな

縄文を施文する 163～165 は船元式に比定でき、口縁部などが認められないため断定はできないが、RL 縄文を施す 164 は中期中葉の船元Ⅱ～Ⅲ式の可能性がある。166～178 は外面に撚糸文を施す中期後葉の里木Ⅱ式である。166 は内湾気味の形状の口縁部片で、キャリパー形に似た器形になると考えられる。167 は口縁端部にも撚糸文を施している。179～181 は中期末土器である。それぞれ幅の広い沈線文が描かれるが、179 は地文に撚糸文、180・181 は RL 縄文を施している。なお、地文に撚糸文を施文する土器は周辺地域でも散見され、里木Ⅱ式との弁別は難しいが、里木Ⅱ式に採用される幅の狭い沈線文（166・168・169）とは異なり、中期末から後期初頭に典型的な幅の広い沈線で文様を描いているため、ここでは中期末土器として把握した。

②後期初頭土器（図 35）

182～185 は中津式併行の九日田式の深鉢および浅鉢である。沈線区画を描いた後に区画内に縄文を施す磨消縄文土器の充填縄文技法が多くの土器で採用され、器面調整は二枚貝条痕が施されるものが目立つ。185 は波状口縁の一部である。186～189 は福田 K2 式古段階併行の五明田式で、186～188 は深鉢、189 は浅鉢と考えられる。187 はこの時期に典型的な文様構成の海馬文が描かれている可能性がある。190 は 3 本沈線の縄文帯を持つ福田 K2 式新段階の浅鉢と考えられる。191～194 は福田 K2 式新段階併行で 2 本沈線の縄文帯を維持する暮地式に比定でき、191 は鉢、192～194 は浅鉢で、器面は丁寧なミガキが施される。なお浅鉢は、後続する成立期縁帯文土器の可能性もある。

③後期前葉土器（図 36）

195～205 は成立期縁帯文土器である。195～199 は深鉢であり、口縁端部に沈線や刻みを施すものが多く、196 はこの時期に典型的な半環状突起を作出する。200～205 は浅鉢で、200～202 は四国地方の松ノ木式の影響を受けた文様を描くが、一部は後期初頭の暮地式の可能性もある。

206～215 は崎ヶ鼻 1～2 式であると考えられる。206～210 は深鉢で、206 は幅の広い口縁部文様帯を作出して沈線文を施す崎ヶ鼻 1 式、207 は肥厚した口縁部に多重入り組み文を立体的に表現する典型的な崎ヶ鼻 1 式である。208 は口縁部が平板化しており、崎ヶ鼻 2 式の範疇に収まると考えられる。209 は RL 縄文を施す胴部、210 は底部である。211～214 は鉢と考えられ、胴部には刺突文や RL 縄文を施している。215 は小片のため明確ではないが、浅鉢あるいは注口土器の可能性もある。216 は九州系土器の小池原上層式の鉢であり、RL 縄文施文後に幅広の浅い沈線で文様を描き、無文部は丁寧なミガキで仕上げている。

③後期中葉～晩期後葉土器（図 37）

217～219 は後期中葉の土器である。217・218 は元住吉山Ⅰ式併行の権現山式の浅鉢と考えられ、217 は巻貝回転による擬縄文、218 は刻みを施している。219 は巻貝回転による擬縄文を施す権現山式の注口土器である。

220 は後期後葉の凹線文系土器の深鉢で、元住吉山Ⅱ式併行に比定できる。外面に複数の凹線、内面に 1 条の凹線を横位に施す。凹線内は丁寧に磨かれ、内部に巻貝による刺突が複数認められる。また、内面の口縁端部付近には刻みが間隔を空けて施される。

221・222 は晩期中葉の原田式新段階の深鉢と考えられる。口縁端部には刻みを施す。器面調整は内外面ともにナデが施されている。

223・224 は晩期後葉の深鉢である。223 の胴部片は垂れ下がり気味の突帯を廻らせて斜め刻みを施す。こうした特徴から、突帯文土器の古市河原田式に比定できる。224 は口頸部の屈曲が弱く、砲弾形となる。口縁端部に細かな円形刺突を施し、胴部には RL 縄文を施文する。こうした特徴は西日本の土器では確認できず、東日本由来の外来系土器の可能性もある⁽¹⁴⁾。

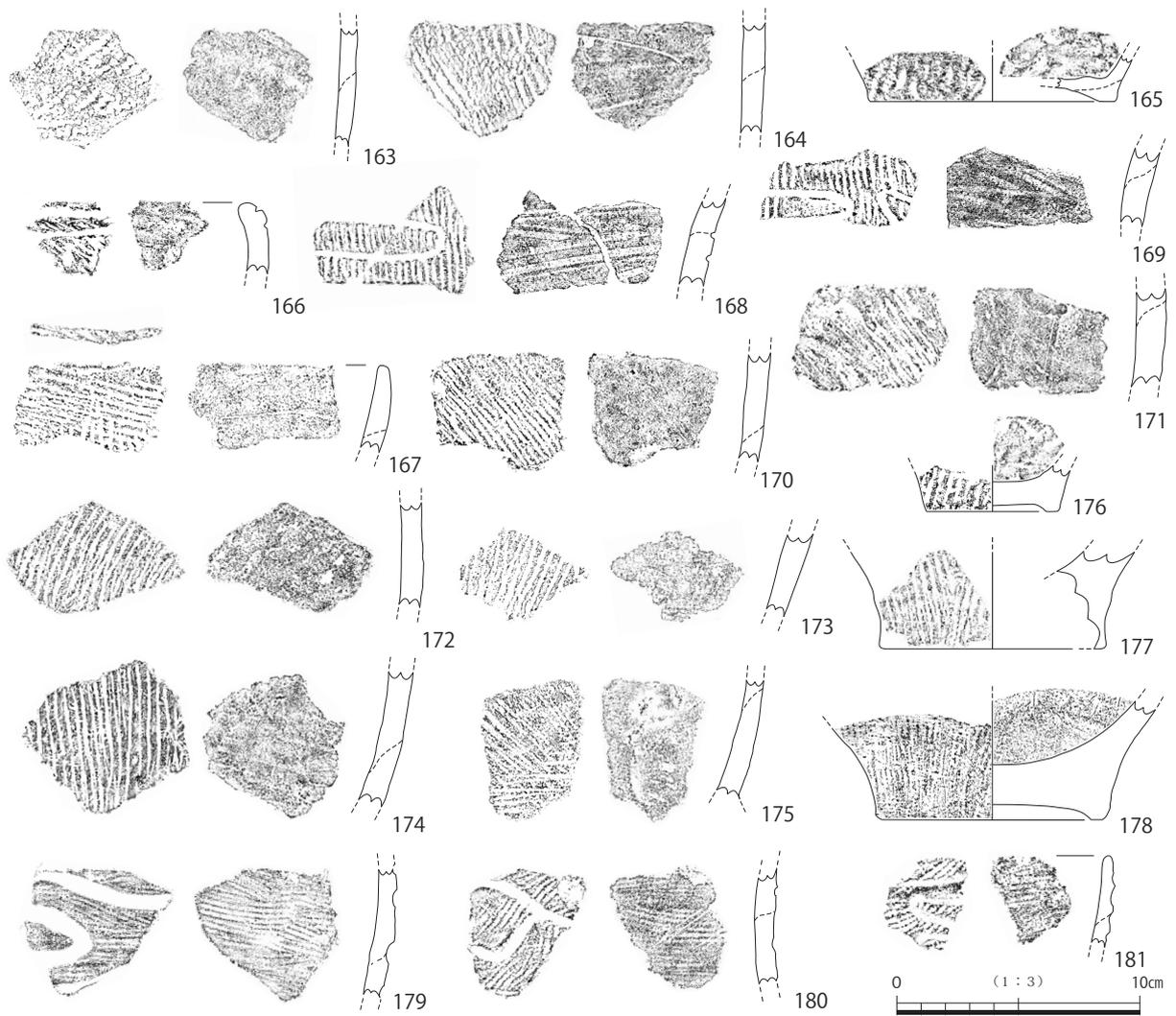


图 34 遺構外出土有文土器 1 (中期)

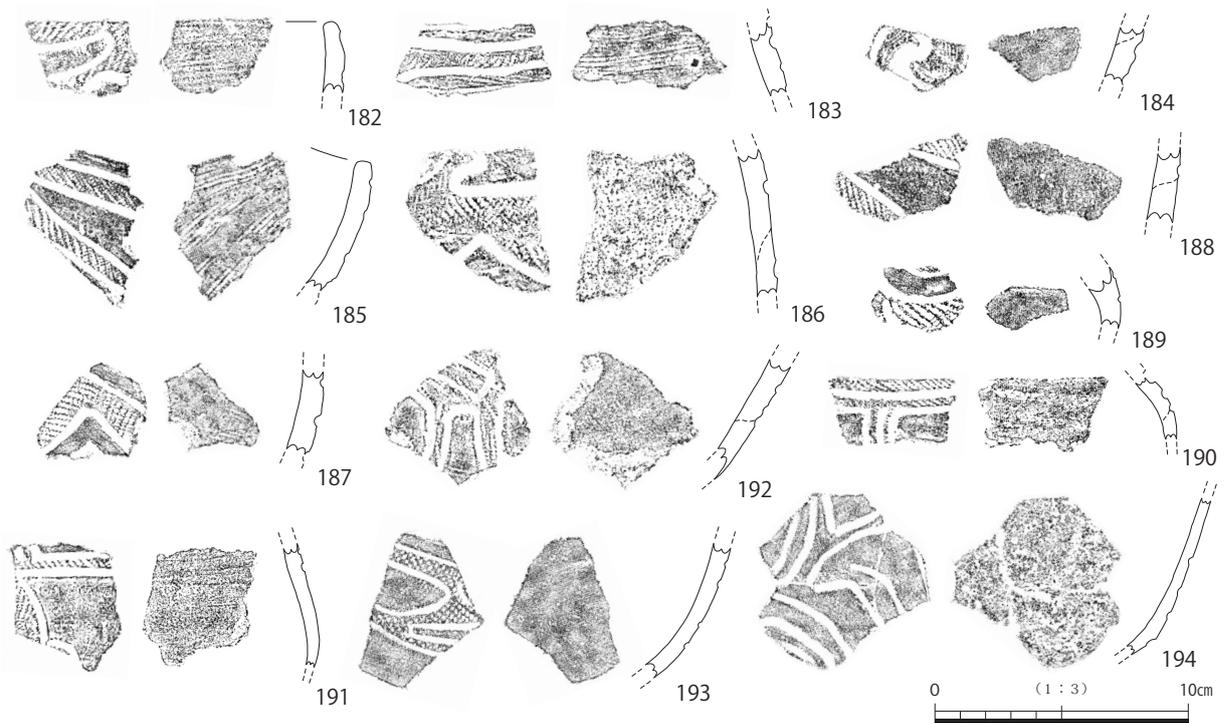


图 35 遺構外出土有文土器 2 (後期初頭)

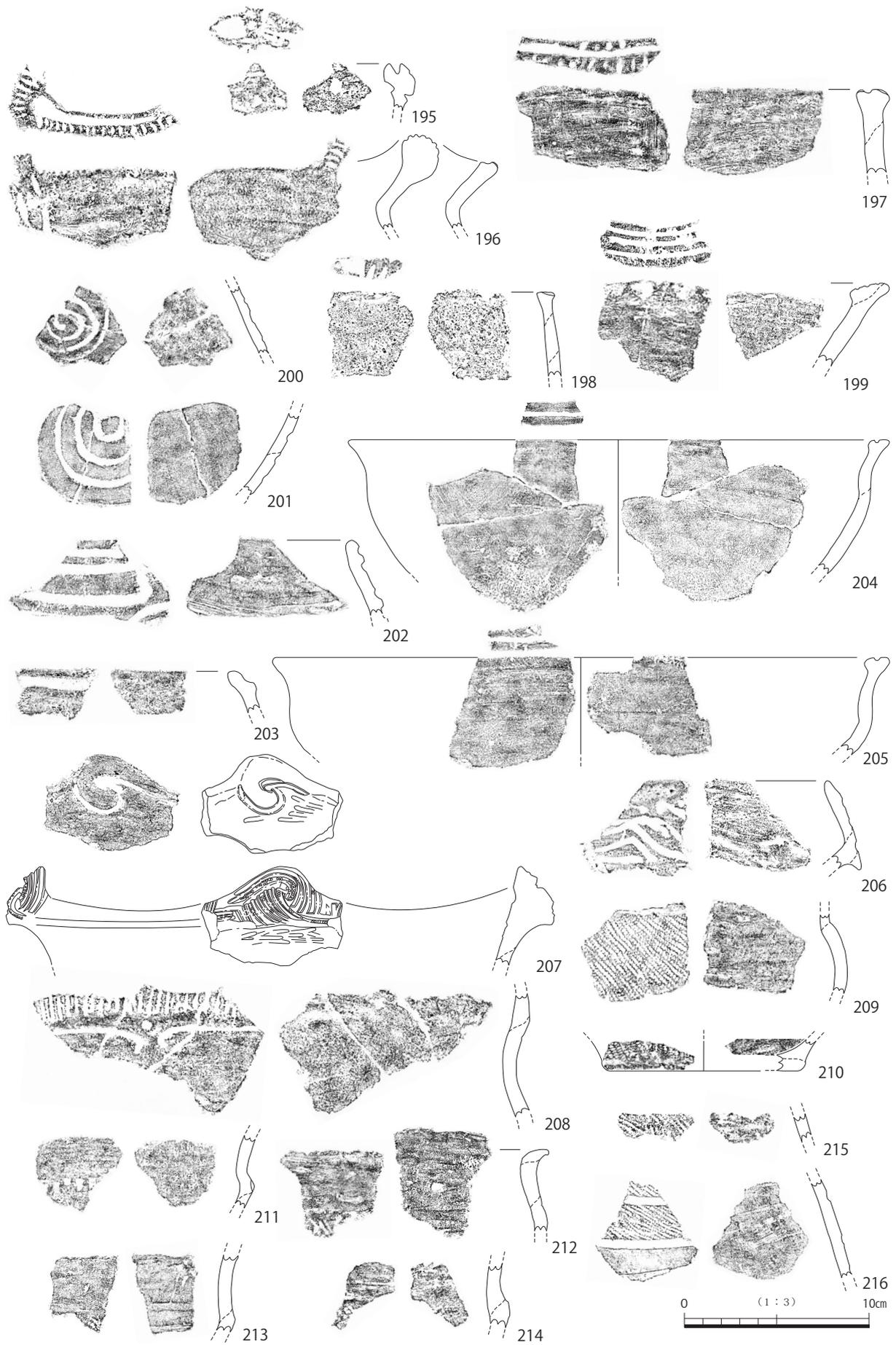


图 36 遺構外出土有文土器 3 (後期前葉)

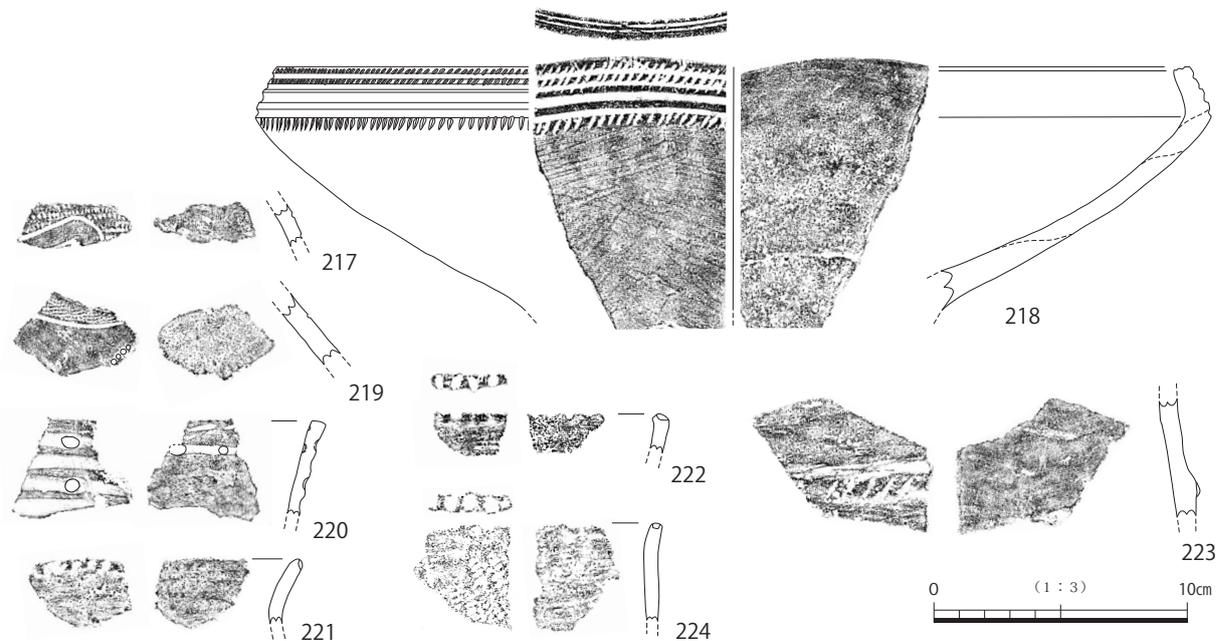


図 37 遺構外出土有文土器 4 (後期中葉～晩期後葉)

④無文土器 (図 38)

無文土器は遺構外から多数出土しているが、その多くが後期前葉頃の所産であると考えられる。ここでは、主な無文土器を中心に取り上げて報告する。

225～232は深鉢である。226・227・230・231は巻貝条痕による粗い調整が施されている。229は内外面ともに丁寧なミガキで調整され、補修孔が認められる。230～232は内面肥厚指頭圧痕土器である。内面肥厚指頭圧痕土器にも複数のバリエーションが認められ、230・231は肥厚させた内面の隆帯を指頭でつまむように押圧して隆帯の先端を尖らせるが、232は隆帯を横方向のナデで調整し、先端部を作出している。

233～247は浅鉢である。233・234は皿形浅鉢で、後期初頭の暮地式から後期前葉の成立期縁帯文土器に多い。また、236や239などの内外面に丁寧なミガキを施す個体を中心に補修孔が認められる。なお、238は他に比べて器壁が厚く、内外面ともに二枚貝条痕による器面調整であり、後期初頭頃の所産の可能性はある。

5. 宮田遺跡の評価と山間部の縄文社会

(1) A IV区の遺構の時期的変遷

今回の報告では、雲南市教育委員会が所蔵している遺物を整理するとともに、当時の調査図面・写真や調査記録を確認することで、宮田遺跡の遺構の詳細な状況が明らかになった。ここではその内容を整理して、A IV区における遺構の時期的変遷からみた宮田遺跡の評価を明確にしたい (図 39)。

A IV区では、少数だが中期中葉頃の遺構が確認され、この地で人々の活動が開始されたのは、概ねその頃と考えてよいだろう。中期後葉になると A IV区で複数の貯蔵穴が確認されており、付近に居住空間が展開し、調査区周辺で生活が営まれるなかでこの地での活動が徐々に安定していったことを示している。なお、後期前葉の遺構のなかには中期の土器が出土するものもあり、後期前葉の土坑などが形成される以前には、中期の遺構が存在した可能性がある。また貯蔵穴では中期後葉の土器のほかにも、後～晩期の粗製土器も少量ながら出土しており、家の後II遺跡1区の調査事例 (図 40)と同様、貯蔵穴は中期後葉以降に配石墓や土坑墓に転用され、後期には葬送・祭祀儀礼の場所として機能したと考えられる。

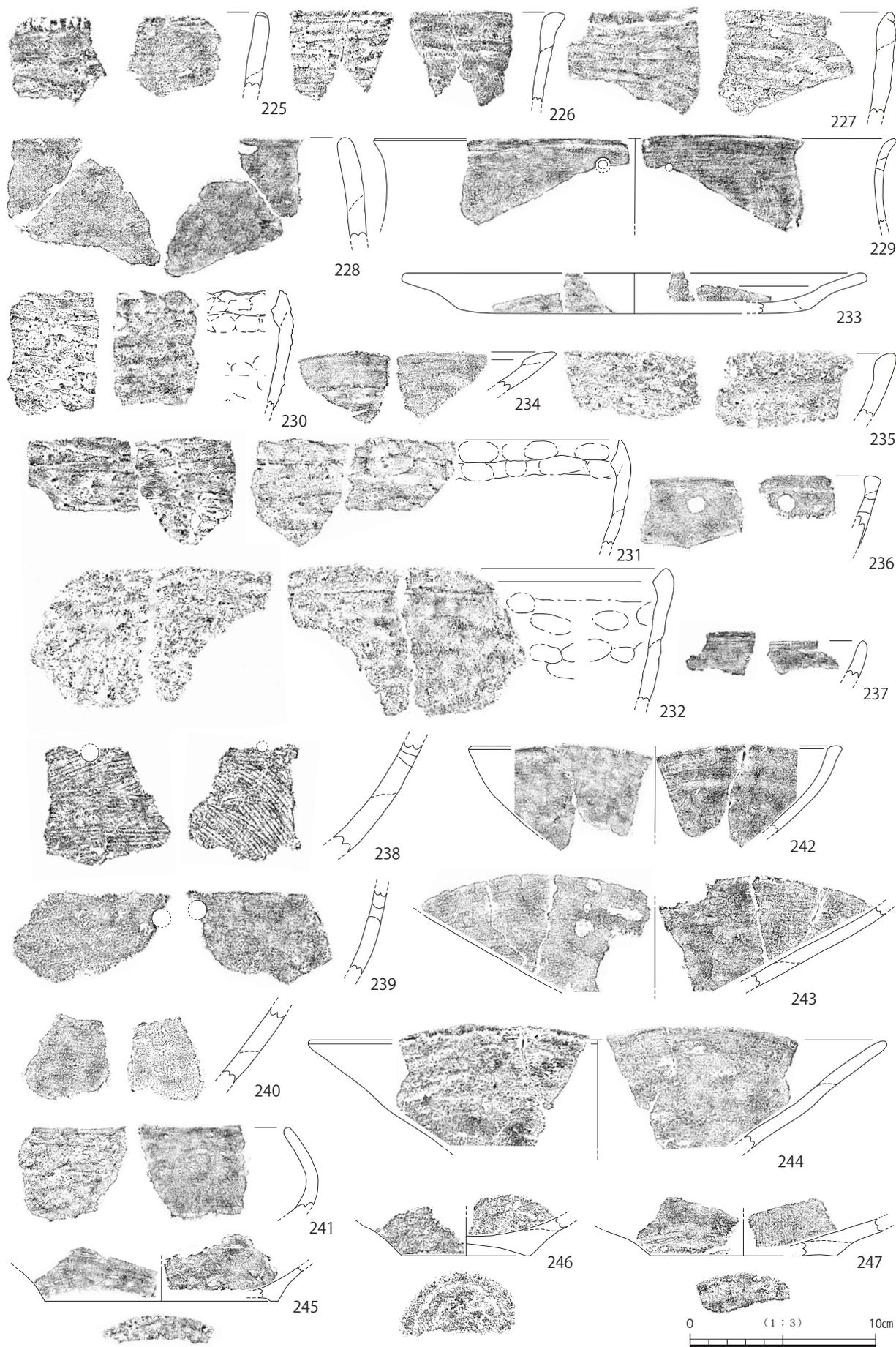
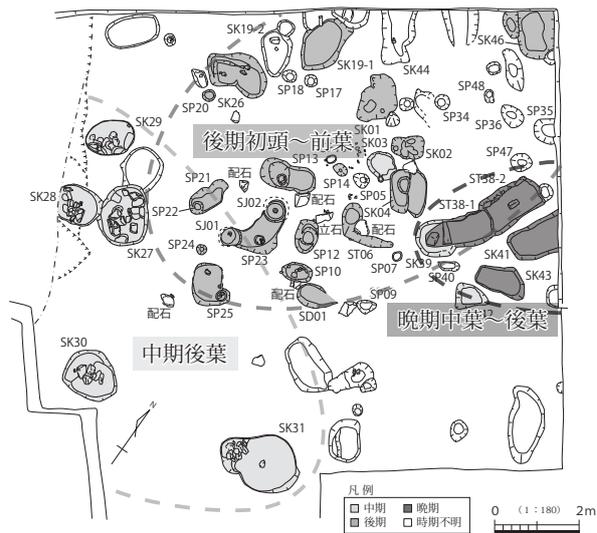


图 38 遺構外出土無文土器



遺構時期	種類	遺構名
中期中葉	土坑	SK03
中期後葉	貯蔵穴	SK27 ~ SK31
中期末	土坑	SK39・SK42
後期初頭	配石土坑	ST06
	土坑	SK01
後期前葉	土器埋設遺構	SJ01・SJ02
	土器埋設遺構 関連柱穴	SP10・SP13・SP21 ~ 23・ SP25
	土坑	SK02・SK04・SK19-1・SK26・ SK46
	柱穴	SP12・SP14・SP20・SP24
	溝	SD01
晚期中葉~後葉	配石土坑	ST38-1・ST38-2
	土坑	SK41・SK43
後~晚期	土坑	SK19-2
後~晚期?	柱穴	SP05・SP07・SP11・SP15・ SP17・SP18・SP34・SP36

図39 宮田遺跡 A IV区の遺構の時期的変遷

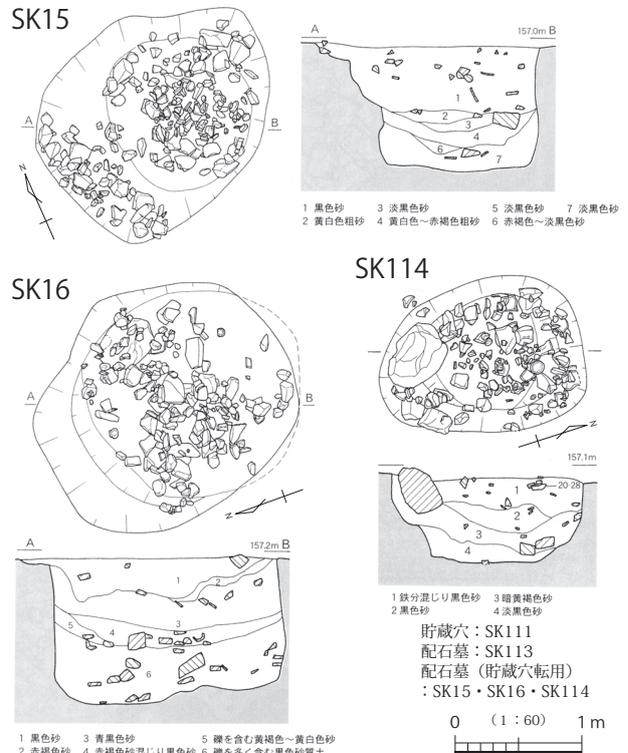
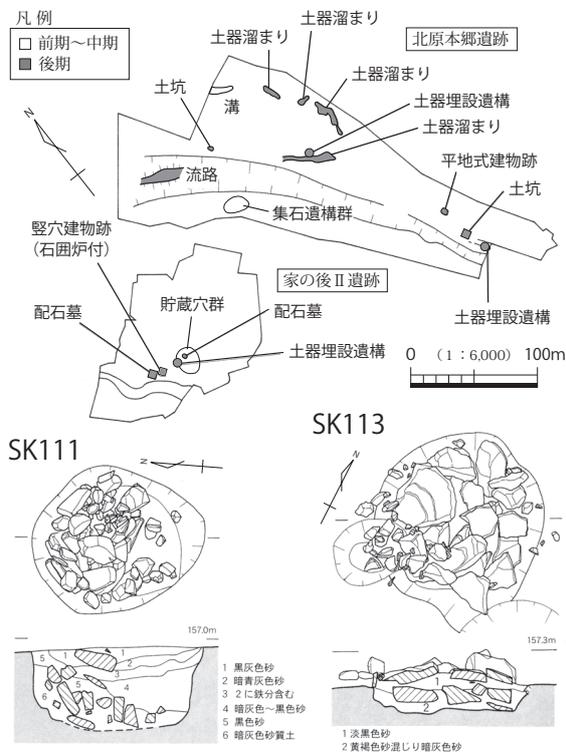
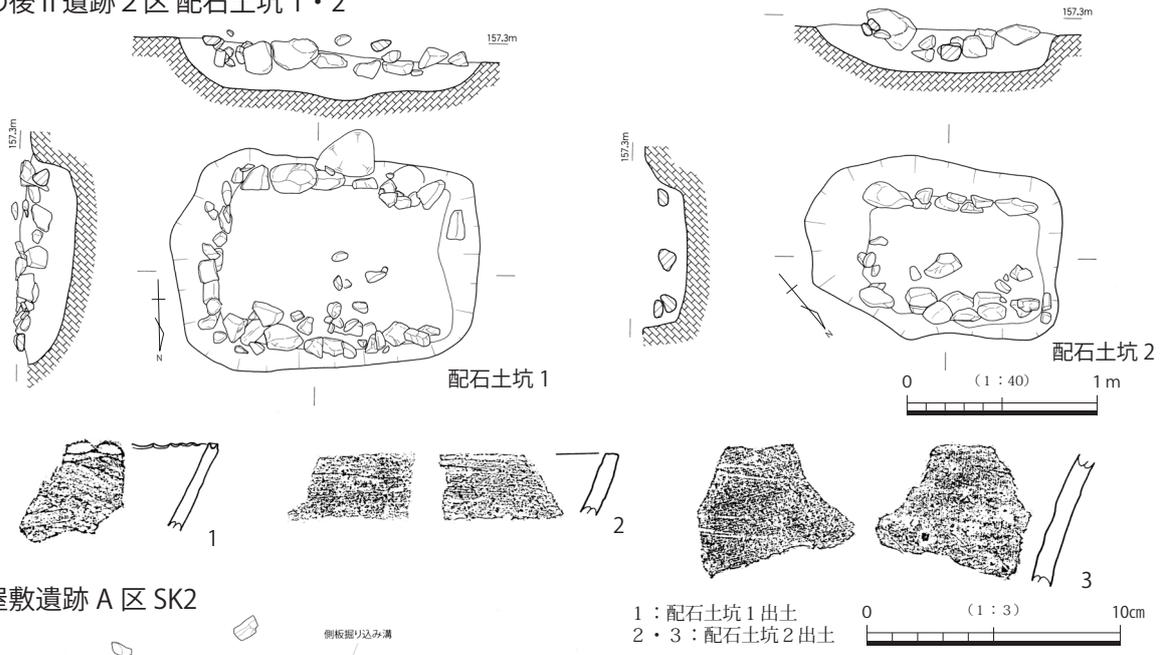


図40 家の後II遺跡・北原本郷遺跡の遺構配置図と家の後II遺跡1区の貯蔵穴・配石墓

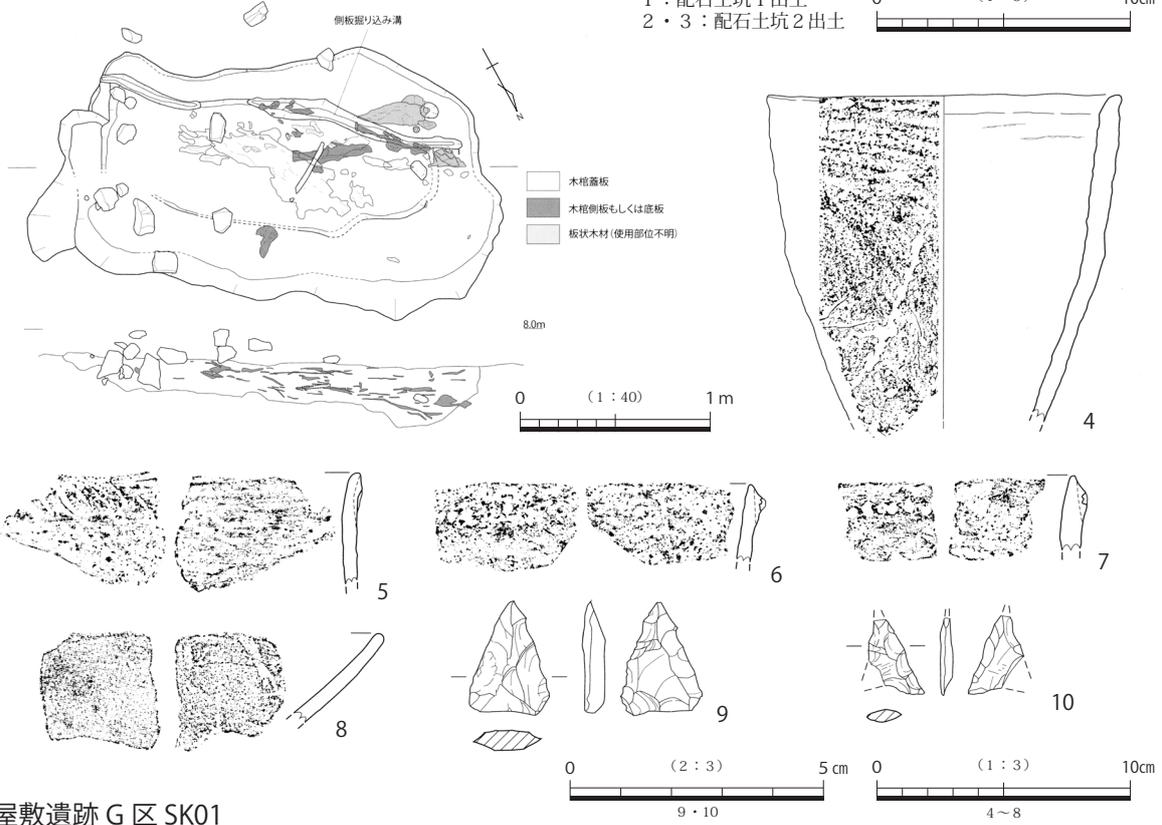
中期末~後期初頭頃にも遺構が確認されるが、後期前葉の土坑などにより削平されている可能性もあり、散発的である。しかしながら、調査区内では後期初頭の土器が一定量出土しているため、中期後葉から引き続き活動が継続していたことを示唆する。

A IV区において最も活動が盛んになるのは後期前葉であり、無文の深鉢が逆位で2基埋納された土器埋設遺構および関連柱穴群で構成されるモニュメントが形成されている⁽¹⁵⁾。A IV区の土層堆積状況から判断すると、このモニュメントが構築された時期は、三瓶山噴火に伴う第1ハイカ降下時期の後期前葉の崎ヶ鼻2式期以前に比定できる。また、周辺には土坑墓と推測される土坑群も確認されているが、土坑群から出土した土器を見ると崎ヶ鼻1~2式までの土器が中心であり、概ね土器埋設遺構や関連柱穴群と同時期頃に設けられた可能性を示唆する。これらを総合して判断すると、後期前葉のA IV区は、生活空間とともに葬送・祭祀儀礼の場所としても機能していたと考えられよう。

家の後II遺跡2区 配石土坑1・2



古屋敷遺跡A区 SK2



古屋敷遺跡G区 SK01

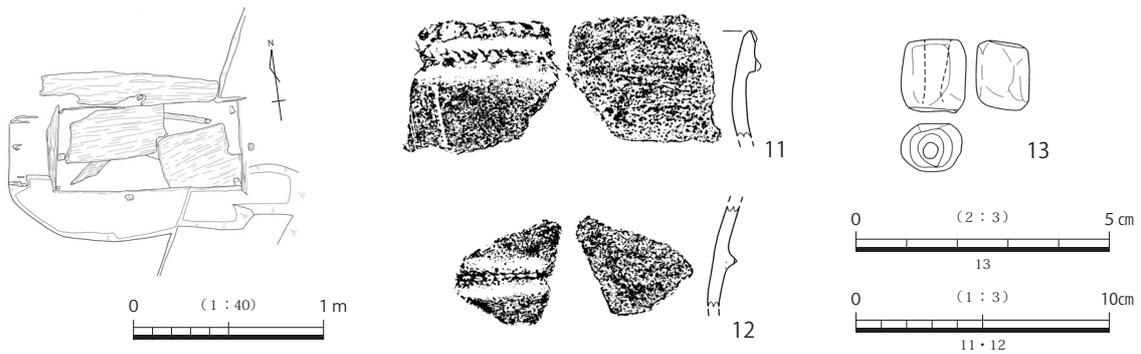


図41 家の後II遺跡2区の木棺痕跡を持つ配石土坑(上)と古屋敷遺跡A区・G区の木棺墓(下)

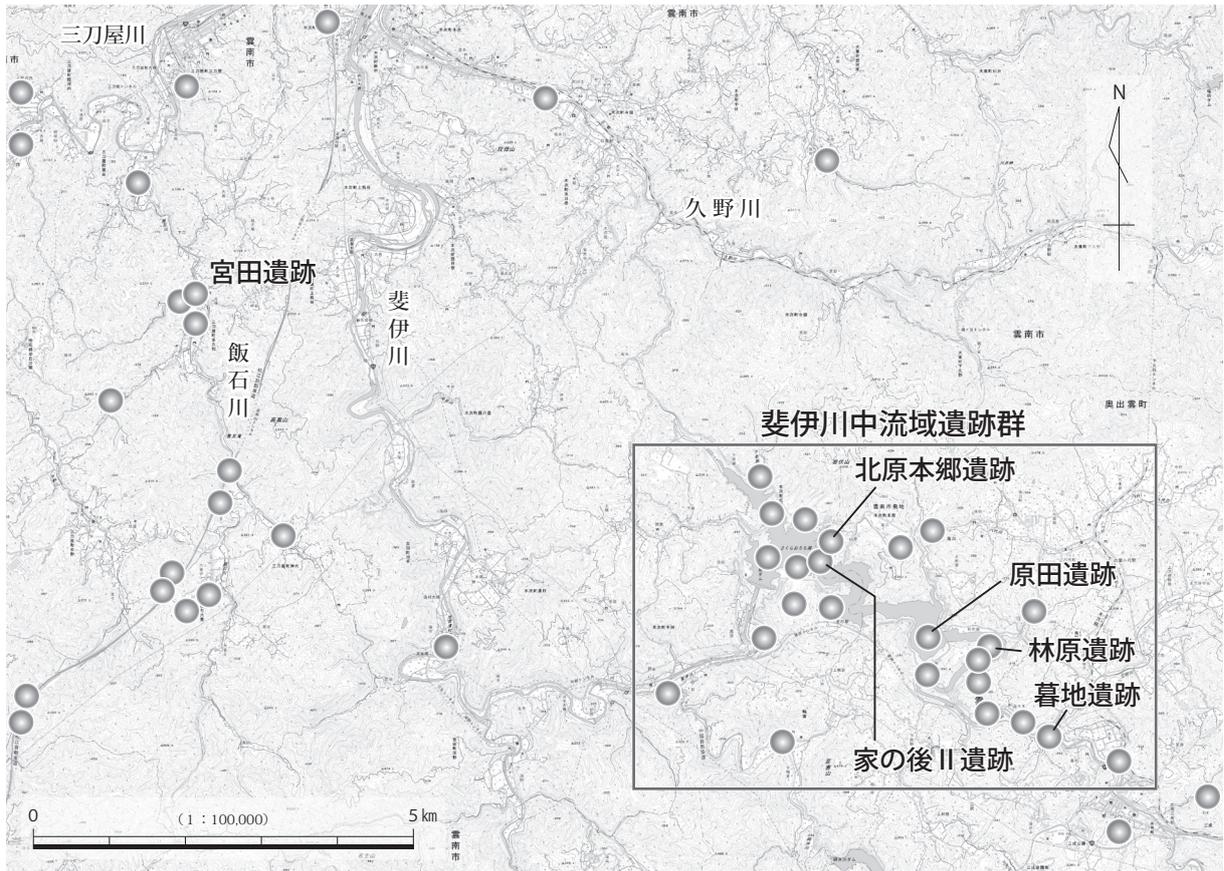


図 42 宮田遺跡周辺と斐伊川中流域遺跡群の縄文時代遺跡の分布

後期中葉以降で時期が判明した遺構は少ないが、長方形の配石土坑・土坑群が目立つ。これらの遺構は、後期前葉の遺構面上に堆積する黒色土を掘り込んで構築されるため、後期中葉以降の所産であると考えられ、出土土器のほか木棺痕跡を示唆する可能性のある礫列が土坑壁面に認められることや、家の後II遺跡2区の晩期中葉の木棺痕跡を持つ配石土坑および古屋敷遺跡A区・G区における晩期後葉の木棺墓の事例(図41)と類似する状況から、晩期中葉～後葉の配石墓・土坑墓群である可能性を考えた。またこれらの遺構の配置に注目すると、全体は不明ながら調査区北側を中心に列状に配置されており、弥生系の墓制を反映した列状配置の墓域形成(山田2000)の様相が看取できる。縄文時代晩期に集塊状配置の墓域が展開するなかで、弥生系の列状配置の墓域が出現しており、縄文・弥生移行期になると縄文系の要素と弥生系の要素の折衷的な墓域が山陰地方で見つかっていることから(山田2000・2014、幡中2011a)、その時期的な変遷のなかで、宮田遺跡でも弥生系の墓制の影響を受けた墓域形成がなされたのかもしれない。この点については、今後検討を重ねることが必要になる。

(2) 斐伊川中流域遺跡群との比較検討からみた宮田遺跡の評価

これまでに確認した遺構の時期的な変遷から見ると、宮田遺跡AIV区は中期後葉の貯蔵穴群などの居住関連遺構が展開する場から後期以降の土器埋設遺構や関連柱穴群で構成されるモニュメントおよび土坑墓群などの葬送・祭祀施設を伴う場へと変容する過程を示している。ここで、宮田遺跡に近接する斐伊川中流域遺跡群(図42)における縄文時代の集落景観との比較検討から宮田遺跡の評価を試みたい。

斐伊川中流域遺跡群のなかで、約6,000㎡の広範囲で調査が実施され、後期前葉の集落全体の様相が判明した奥出雲町の林原遺跡(久保田・稲田編2007)の状況では、土器埋設遺構や土坑墓など葬送や祭祀儀礼に伴う遺構の近くには、住居跡や土器溜まりなどの居住に関連した遺構が複数確認されており(図43)、両者が同一空間のなかで共存しながら累積する様子が認められる。宮田遺跡でも同様の状況が展開

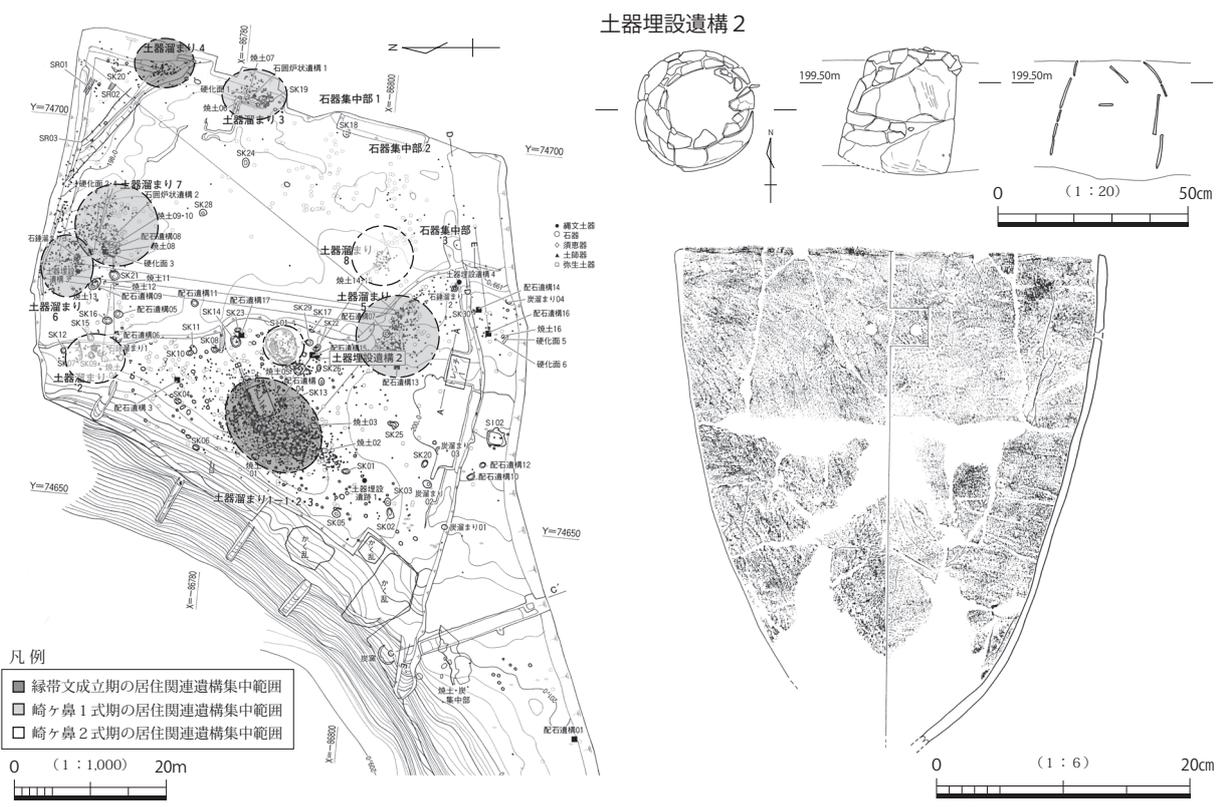


図43 林原遺跡の遺構平面図(左)と土器埋設遺構2(右)

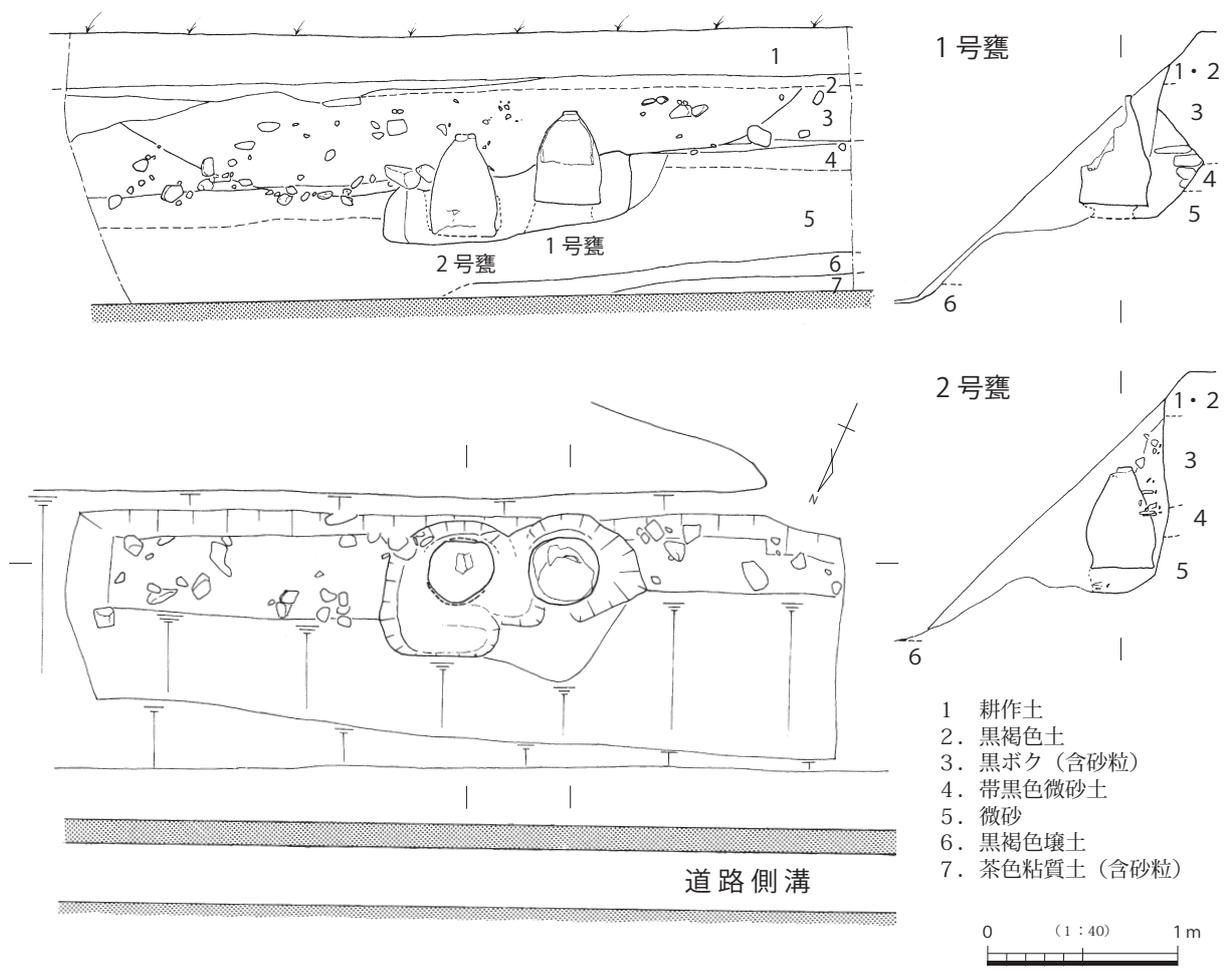


図44 墓地遺跡の土器埋設遺構

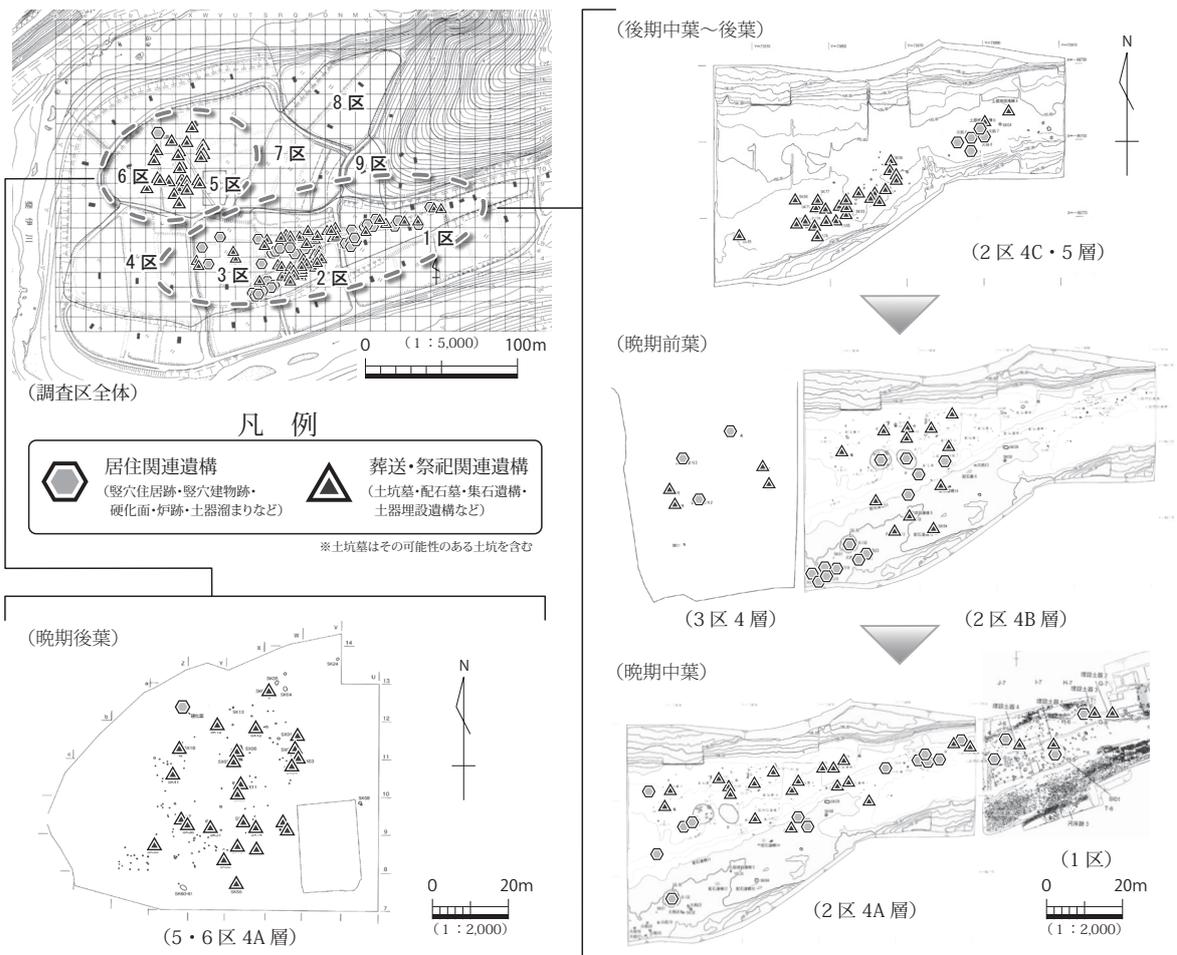


図45 原田遺跡における後期中葉から晩期後葉の墓域形成過程

した可能性があり、A IV区からは粗製土器を含む多量の土器が出土することからも、A IV区周辺に居住に関連する遺構が存在した可能性は十分に想定し得るだろう。

なお、A IV区の後期前葉の土器埋設遺構については、暮地遺跡で同様の状況が確認できる。暮地遺跡の土器埋設遺構では2基の無文の深鉢を逆位にして埋設しており（杉原1981・野津ほか編2004）（図44）、宮田遺跡の土器埋設遺構と様相が類似する。宮田遺跡と概ね同時期頃に設営されたと想定され、斐伊川中流域遺跡群におけるその他の遺跡でも後期前半の無文土器が逆位で据えられた土器埋設遺構が確認されるため、土器埋設に関連する風習や精神文化がこの地域で醸成されていった可能性が考えられる。こうした土器埋設遺構の展開については、今後改めて詳しく検討すべき課題である。

A IV区における後期中葉以降では、長方形の配石墓や土坑墓が同じ地点に累積するが、奥出雲町の原田遺跡の様相からその一端を読み解くことができる。原田遺跡では、葬送や祭祀に関連する遺構が同じ場所に累積しながら墓域を形成する様相が後期中葉から晩期後葉にかけて認められ（西尾編2004、勝部・花田編2006、熱田ほか編2007b、伊藤編2008）、長期間継続する後期中葉以降の墓域形成の様相が明らかにされている（幡中2015・2019）（図45）。A IV区においても、調査区外に同様の状況で土坑墓などの葬送や祭祀に関連する遺構が存在しており、後期中葉以降から累積していた可能性が考えられる。

このようにしてみると、宮田遺跡は後期前葉のモニュメントとしての土器埋設遺構の具体的な様相が把握できる遺跡であるとともに、斐伊川中流域遺跡群に近接する山間部の縄文時代の地域社会が、中期から後期、そして晩期にかけてどのように展開し、変容していったのかを具体的に読み解くための重要な情報を提供する遺跡として評価できる。

6. 今後の課題と展望

今回の報告では、宮田遺跡における A IV 区の遺構を中心に検討を重ねて遺跡の評価を進め、土器の様相についても遺跡の全体像を把握するために遺構の出土土器を中心に報告を行った。一方、A IV 区では石器も一定量出土しているものの、今回は触れることができなかった。概報では石錘が目立って出土していることが報告されており（西尾編 1979）、斐伊川中流域遺跡群では林原遺跡などで多量の石錘が認められることから（稲田 2007）、この地域の生業形態の一端が読み取れる。宮田遺跡の石器を整理して詳細に検討を行うことで、山間部の縄文社会の生業形態がより具体的に明らかになるとと思われる。

宮田遺跡では、これまでモニュメントとしての性格を帯びた土器埋設遺構の様相が取り上げられることが多く、西日本のなかでの評価や位置づけの検討も実施されてきた（山田 1999・2001・2010 など）。その後各地で資料の増加が進み、鳥根県東部の山間部で後期前半頃に逆位の土器埋設遺構が卓越することが分かってきた（幡中 2011b・2019 など）。これらの点を踏まえて西日本の土器埋設遺構を汎地域的に検討する必要があり、土器埋設遺構が東日本から西日本に波及する現象（植田 1991）のなかで、斐伊川流域周辺においてどのように受容され、展開していったのかを紐解くことが今後の課題である。こうした課題に取り組み、宮田遺跡の検討をさらに進める必要があろう。

謝辞

本稿の報告内容は、令和 6 年度の荒神谷博物館特別展関連講演会および令和 7 年度の第 3 回雲南市歴史文化講座での発表内容および関連する資料調査・整理内容を基礎として構成したものである。今回の報告にあたり、宮田遺跡の資料調査および当時の調査図面・写真や記録資料などの確認について、雲南市教育委員会の角田徳幸氏および志賀崇氏に多大な便宜を図っていただいた。また、柳浦俊一氏には鳥根県教育庁古代文化センターのテーマ研究事業において、宮田遺跡の資料調査を実施するなかで有益なご教示をいただき、発掘調査や概報の編集を担当された西尾克己氏に当時の状況などについて様々な情報提供をいただいた。末筆ながら記して感謝申し上げます。

註

- (1) 調査当初は広大な範囲を持つ京殿遺跡のなかにおいて、京殿地区、古殿地区、宮田地区の 3 地区に分けて調査が実施されていた。調査が進むなかで、宮田地区に縄文時代の遺構や遺物が多量に集中することを受け、当時調査事例が少なかった山間部での縄文時代を代表する遺跡として、宮田地区が宮田遺跡として設定された。
- (2) 宮田遺跡の資料は、平成 22 年度から平成 25 年度に実施された鳥根県教育庁古代文化センターのテーマ研究事業「縄文時代における山陰地域社会の展開」において、柳浦俊一氏と筆者が一部整理を行っていた。今回はその内容を継承しつつ、改めて遺構出土の土器資料などを中心に整理と検討を進めた。
- (3) 雲南市教育委員会に保管されていた調査記録のなかに、杉原清一氏がまとめたと思われる報告の草稿の一部を確認した。調査状況などが丁寧に整理され、当時の様子が分かる貴重な資料となっている。そのため、今回の報告でも必要に応じて内容を援用しており、調査担当者の杉原清一氏の見解を参照しつつ、資料の検討を行った。
- (4) A IV 区の調査で出土した縄文土器には、出土遺構の名称や出土した調査グリッド名（図 6）に加えて、黒色土中の出土位置情報（黒色土上・黒色土下など）が記録されている。
- (5) 貯蔵穴から出土した土器は、杉原草稿では周辺の土器片が自然埋没で混入したとされており、貯蔵穴周辺にはこの時期の生活空間が展開していた可能性を示唆する。
- (6) 中期の貯蔵穴が配石墓や土坑墓などに転用された可能性のある事例は、斐伊川中流域遺跡群における雲南市の家の後 II 遺跡 1 区の調査で確認されている（熱田ほか編 2007a）。なお 5 節で詳述するが、家の後 II 遺跡では中期に貯蔵穴が設けられた後に、周辺で後期の配石墓や土器埋設遺構などが形成され、宮田遺跡で確認できる遺構の時期的変遷と類似する。
- (7) 杉原草稿では、出土状況を含む土器埋設遺構の詳細な情報が整理されており、その内容を踏まえて検討する。
- (8) 当時の分析関連資料のなかに、リン分析の報告（1980 [昭和 55] 年 3 月 松江北高等学校 勝部秀子氏報告）が残されており、その内容を参照した。土壌が 5 点分析され、その多くで高い数値でリンが検出されているものの、土壌の

採取場所が確認できず、総合的な判断が難しい。なお、宮田遺跡と同様に逆位の土器埋設遺構が2基見つかった暮地遺跡のリン分析では、埋設土器内の土壌のほかに埋設土器周辺の土層から採取した試料も分析され、埋設土器内部のリンの含有量は周辺土層と同等か、やや低い値を示した結果が報告されている（岩田 1981）。

- (9) SJ01・SJ02埋設土器（図14・16）の3Dモデルの作成については、株式会社TDMテックにご協力いただいた。
- (10) 巻貝条痕による粗い調整は、後期中葉の後半期になるとほとんど認められない（幡中編 2019）。そのため、後期前葉の土器が大半を占める宮田遺跡では、概ねこの時期の器面調整として把握できる。
- (11) SP23は、当時の調査図面などから2基の土器埋設遺構と連結する掘り込み全体を示す可能性があるため、本稿でもその前提を踏まえて内容を報告する。
- (12) 宮田遺跡における出土土器付着の赤色顔料の蛍光X線分析は、島根県産業技術センター所蔵の微小部蛍光X線分析装置（BRUKER社製M4 TORNADO）を用いて実施した。分析では、島根県産業技術センターの吉岡尚志氏および文化財調査コンサルタント株式会社の渡邊正巳氏にご協力いただいた。
- (13) 家の後Ⅱ遺跡2区では、土坑壁面に礫列が設けられた後期中葉頃の配石土坑が2基確認されている。
- (14) 小片のため断定はできないが、東北地方における大洞A式の深鉢の影響が想定できるかもしれない。なお、この時期の山陰地方では複数の遺跡で大洞式系土器が出土しており、宮田遺跡に近接する雲南市の万場Ⅰ遺跡では、大洞C₂式～A₁式頃のC字文を水銀朱で頸部に描いた鉢が複数出土している（安川編 2009）。
- (15) 周囲に柱穴群を伴う宮田遺跡の土器埋設遺構は、中四国地方の埋設土器を検討した山田康弘氏により何らかのモニュメントとして機能したと評価されている（山田 1999・2001・2010）。

参考文献

- 熱田貴保・小銀康之・守岡正司・渡邊富美子編 2007a『家の後Ⅱ遺跡2 北原本郷遺跡2』尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会
- 熱田貴保・小銀康之・守岡正司・渡邊富美子編 2007b『原田遺跡（3）-5～7区の調査-』尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会
- 伊藤 智・柳浦俊一・渡邊正巳編 2017『古屋敷遺跡（A・E区）』一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1 島根県教育委員会
- 伊藤徳広編 2008『原田遺跡（4）第2分冊-縄文時代以降の調査-』尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書12 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会
- 稲田陽介 2007「林原遺跡から見た山陰地方縄文後期集落の一樣相」『林原遺跡』尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財調査発掘調査報告書11 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会 145～154頁
- 岩田 整 1981「甕体内及び甕体外採取土のリン分濃度比較」『島根県埋蔵文化財調査報告書』第Ⅷ集 島根県教育委員会 7頁
- 植田文雄 1991「拡張、あるいは展開する縄文文化-西日本における埋甕の出現とその変容をめぐって-」『滋賀考古』第5号 滋賀考古学研究会 1～31頁
- 勝部智明・花田修司編 2006『原田遺跡（2）-2区の調査-』尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書8 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会
- 久保田一郎・稲田陽介編 2007『林原遺跡』尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財調査発掘調査報告書11 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会
- 杉原清一 1981「仁多・暮地遺跡」『島根県埋蔵文化財調査報告書』第Ⅷ集 島根県教育委員会 1～6頁
- 杉原清一 1982「島根県宮田遺跡」『日本考古学年報32（1979年度版）』日本考古学協会 78～80頁
- 千葉 豊 2014「縄文後期土器研究の現状と課題-山陰地方の前半期を中心に-」『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集第13集 島根県古代文化センター 43～56頁
- 中川 寧編 2005『宮ノ脇遺跡 家の後Ⅱ遺跡1』尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会
- 西尾克己編 1979『京殿遺跡-調査概報-』三刀屋町教育委員会
- 西尾克己編 2004『家ノ脇Ⅱ遺跡 原田遺跡1区 前田遺跡4区』尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会
- 野津 旭・杉原清一・藤原友子編 2004『暮地遺跡』尾原ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 仁多町教育委員会
- 幡中光輔 2011a「山陰地域における葬祭空間の成立と展開」『中四国地方縄文時代の精神文化』第22回中四国縄文研究会岡山大会発表要旨集・集成資料集 中四国縄文研究会 59～74頁
- 幡中光輔 2011b「島根県の精神文化関連遺物および遺構集成とその概要」『中四国地方縄文時代の精神文化』第22回中四国縄文研究会岡山大会発表要旨集・集成資料集 中四国縄文研究会 101～205頁
- 幡中光輔 2014a「自然災害と地域社会の定着性-三瓶山の噴火からみた縄文社会-」『山陰地方の縄文社会』古代文化セ

- ンター研究論集第13集 島根県古代文化センター 77～92頁
- 幡中光輔 2014b「山陰地方の縄文時代遺跡データベースと型式別遺跡数の推移」『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集第13集 島根県古代文化センター 172～173頁
- 幡中光輔 2015「中国・四国地方における縄文墓制－瀬戸内地域と中国山地から墓域形成を考える－」『季刊考古学』第130号 雄山閣 42～44頁
- 幡中光輔 2019「中国地方における縄文時代墓制の諸様相」『列島における縄文時代墓制の諸様相』第2回研究集会基礎資料集 縄文時代文化研究会 420～433頁
- 幡中光輔編 2019『京田遺跡4区』一般国道9号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書・出雲市の文化財報告39 出雲市教育委員会
- 林 健亮編 2017『古屋敷遺跡（D区）』一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会
- 柳浦俊一 2014「貝類による土器の器面調整と施文」『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集第13集 島根県古代文化センター 133～154頁
- 安川賢太編 2009『万場I遺跡』市道新市坂本口線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書・雲南市埋蔵文化財調査報告書4 雲南市教育委員会
- 山田康弘 1999「宮田遺跡」『山陰の縄文時代遺跡』第28回山陰考古学研究集会発表要旨集・集成資料集 山陰考古学研究集会 238～240頁
- 山田康弘 2000「山陰地方における列状配置墓域の展開」『島根考古学会誌』第17集 島根考古学会 15～38頁
- 山田康弘 2001「中国地方の土器埋設遺構」『島根考古学会誌』第18集 島根考古学会 53～80頁
- 山田康弘 2010「中国・四国地方の縄文集落の葬墓制」『縄文集落の多様性II 葬墓制』雄山閣 295～316頁
- 山田康弘 2014「山陰地方における弥生前期の墓地構造」『国立歴史民俗博物館研究報告』第185集 国立歴史民俗博物館 111～138頁

挿図・表出典

- 図1・3～39：出土遺物および当時の調査図面・写真や調査記録などの関連資料をもとに作成（遺物実測図は新規作成）
- 図2・42：地理院タイルに遺跡位置を追加して作成
- 図40：熱田ほか編 2007a から引用して作成
- 図41：中川編 2005、伊藤・柳浦・渡邊編 2017、林編 2017 から引用して作成
- 図43：久保田・稲田編 2007 から引用して作成
- 図44：杉原 1981、野津ほか編 2004 から引用して作成
- 図45：西尾編 2004、勝部・花田編 2006、熱田ほか編 2017b、伊藤編 2008 および幡中 2015 から引用して作成
- 表1～7：筆者作成（表1は西尾編 1979 から引用して作成）

表3 土器観察表(1)

挿図番号	出土位置				種別	器種	量目 (cm)			胎土	色調 外面：上段 内面：下段	器面調整 外面：上段 内面：下段	焼成	時期	土器型式	備考
	掘取図	番号	Gr	遺構			層	口径	底径							
7	1	A2	SK03	—	縄文土器	深鉢			0.5～1mm大の砂粒を含む 1mm大の金雲母を少量含む	褐色 浅黄褐色	ミガキ? ナデ? ミガキ ナデ	良好	中期中葉	船元Ⅱ～Ⅲ式	2段RL縄文 胴部片	
7	2	A2	SK03	黒色土上	縄文土器	深鉢			0.1～0.3mm大の砂粒を少量含む 0.1～0.3mm大の白色砂粒を含む	褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期中葉	船元Ⅱ～Ⅲ式	2段RL縄文 胴部片	
7	3	A2	SK03	黒色土上	縄文土器	深鉢			0.1～0.3mm大の砂粒を含む 0.5～1mm大の白色砂粒を含む	浅黄褐色 灰黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期中葉	船元Ⅱ～Ⅲ式	2段RL縄文 胴部片	
9	4	E2	SK28	—	縄文土器	深鉢			0.1～0.3mm大の砂粒を少量含む 1～3mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 黒色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
9	5	E2	SK28	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の白色砂粒を含む 1～3mm大の砂粒を少量含む	褐色 にぶい褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
9	6	E2	SK28	—	縄文土器	深鉢			0.5mm以下の白色砂粒を少量含む 1～3mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 灰黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
9	7	E2	SK28	—	縄文土器	深鉢			1～3mm大の白色砂粒を含む	にぶい褐色 灰褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
9	8	E2	SK28	—	縄文土器	深鉢			0.3～0.5mm大の金雲母を含む 0.3～0.5mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期	里木Ⅱ式	胴部片	
9	9	D1	SK29	—	縄文土器	深鉢			2mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色～褐色	二枚貝条痕? 二枚貝条痕	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
9	10	D1	SK29	—	縄文土器	深鉢			0.1～0.3mm大の金雲母を含む 2mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片	
9	11	D1	SK29	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む 3mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい黄褐色 灰黄色	巻貝条痕(粗い) ナデ ナデ	良好	後期前葉?		口縁部片	
9	12	E4	SK30	—	縄文土器	深鉢			0.5～1mm大の白色砂粒を含む	褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
9	13	E4	SK30	—	縄文土器	深鉢			0.5～1mm大の砂粒を含む	にぶい褐色～褐色 褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
9	14	E4	SK30	—	縄文土器	深鉢			0.5～1mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	15	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢	(26.0)		0.5mm以下の砂粒を含む 1～3mm大の砂粒を少量含む	褐色 褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 口縁部～胴部片	
10	16	C5	SK31	—	縄文土器	深鉢			0.3～0.5mm大の白色砂粒を含む 0.5～1mm大の砂粒を少量含む	褐色～褐色 灰黄褐色～褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	17	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			0.1～0.3mm大の白色砂粒を含む 1～3mm大の砂粒を含む	暗褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	18	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の白色砂粒を含む 1～3mm大の砂粒を少量含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	19	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			0.1～0.3mm大の白色砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	20	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい褐色	条痕後ナデ ミガキ? ナデ? ミガキ ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	21	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	22	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			0.5mm以下の白色砂粒を含む 3～5mm大の礫を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	23	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 灰黄褐色	ミガキ? ミガキ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	24	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	25	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	褐色 灰黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	26	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい褐色	ナデ ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	27	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	28	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	29	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 灰黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	30	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	31	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	32	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	33	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	灰黄褐色 灰黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	34	B5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	灰黄褐色 灰黄褐色	ナデ ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺系文 胴部片	
10	35	C5	SK31	—	縄文土器	深鉢			1～3mm大の白色砂粒を含む 3～5mm大の石英を少量含む	にぶい黄褐色 明黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片	
11	36	A3	SK39	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を少量含む	褐色 灰白色	ミガキ 二枚貝条痕後ナデ	良好	中期		無節L縄文 沈線 胴部片	
11	37	Z4	SK42	—	縄文土器	深鉢			0.5mm以下の砂粒を含む	灰黄褐色 灰黄褐色	ナデ ナデ	良好	中期末		沈線 胴部片	
11	38	A2	ST06	黒色土下	縄文土器	深鉢			0.1～0.3mm大の砂粒を少量含む	褐色 黒褐色	ナデ ナデ	良好	後期初頭	九日田式	沈線 口縁部片	
14	39	C3	SJ01	—	縄文土器	深鉢	38.9	(12.2)	52.8	1～2mm大の白色砂粒を含む 3～5mm大の礫を少量含む	明黄褐色 黄褐色	巻貝条痕(粗い) ナデ 条痕後ナデ	良好	後期前葉		SJ01埋設土器 内外面煤付着 補修孔 底部穿孔
15	40	C3	SJ01	—	縄文土器	浅鉢			0.5mm大の砂粒を少量含む	黄褐色 黄褐色	ミガキ(丁寧) ミガキ(丁寧)	良好	後期初頭	幕地式	2段RL縄文 沈線 胴部片	
15	41	C3	SJ01	—	縄文土器	鉢			0.5～1mm大の白色砂粒を少量含む	黒褐色 にぶい褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期初頭	幕地式	2段RL縄文 沈線 頸部～胴部片	
15	42	C3	SJ01	—	縄文土器	深鉢			0.5～1mm大の砂粒を含む 3～5mm大の礫を少量含む	にぶい黄色 にぶい黄褐色	巻貝条痕 巻貝条痕	良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	沈線 刻み 口縁部片	
15	43	C3	SJ01	—	縄文土器	深鉢			0.3～0.5mm大の白色砂粒を含む	灰黄褐色 灰黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	口縁部片	
15	44	C3	SJ01	—	縄文土器	深鉢			0.5～1mm大の雲母を含む 1～3mm大の砂粒を含む	明赤褐色 褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片	
15	45	C3	SJ01	—	縄文土器	深鉢			0.5～1mm大の金雲母を少量含む 1～3mm大の砂粒を少量含む	浅黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片	
15	46	C3	SJ01	—	縄文土器	深鉢			2～3mm大の砂粒を少量含む	灰黄褐色 灰黄褐色	ナデ? ナデ?	良好	後期		口縁部片	
15	47	C3	SJ01	—	縄文土器	深鉢			1～3mm大の白色砂粒を含む 3～5mm大の砂粒を少量含む	赤褐色 赤褐色	ナデ ミガキ ナデ(丁寧)	良好	後期		口縁部～胴部片	
15	48	C3	SJ01	—	縄文土器	深鉢			0.5～1mm大の砂粒を少量含む 2～3mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい褐色 にぶい褐色	ナデ ナデ	良好	後期		胴部片	
15	49	C3	SJ01	—	縄文土器	深鉢			0.5～1mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		胴部片	
16	50	B2	SJ02	—	縄文土器	深鉢	37.0	(10.4)	48.5	0.5～1mm大の砂粒を含む 1～3mm大の砂粒を少量含む	明黄褐色 黄褐色	ナデ(丁寧) ナデ(丁寧)	良好	後期前葉		SJ02埋設土器 内外面煤付着 補修孔 底部穿孔
17	51	B2	SJ02	—	縄文土器	鉢	(22.0)			0.1～0.3mm大の砂粒をわずかに含む	黒褐色 黒褐色	ミガキ(丁寧) ミガキ(丁寧)	良好	後期前葉		口縁部～胴部片
17	52	B2	SJ02	—	縄文土器	深鉢	(38.0)			0.3～0.5mm大の金雲母を含む 1～3mm大の砂粒を含む	にぶい褐色 黒褐色	ナデ ミガキ	良好	後期		口縁部片
17	53	B2	SJ02	—	縄文土器	深鉢				1mm大の砂粒を含む 1mm大の金雲母を含む	黒褐色 黒褐色	巻貝条痕 ナデ	良好	後期		外面煤付着 口縁部片
17	54	B2	SJ02	—	縄文土器	浅鉢		(8.0)		0.5～1mm大の砂粒を含む 1～3mm大の白色砂粒を含む	褐色 褐色	ミガキ(底面はナデ) ミガキ	良好	後期		底部片 平底
17	55	B2	SJ02	—	縄文土器	深鉢				0.5～1mm大の砂粒を含む	褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		胴部片
18	56	C3	SP23	—	縄文土器	深鉢	(36.0)			0.5～1mm大の砂粒を多く含む 0.5～1mm大の金雲母を含む	にぶい褐色 にぶい黄褐色	巻貝条痕(粗い) ナデ	良好	後期前葉?		内外面煤付着 口縁部～胴部片

表 4 土器観察表 (2)

挿図番号	出土位置				種類	器種	量 (c.m)			胎土	色調 外面：上段 内面：下段	器面調整 外面：上段 内面：下段	焼成	時期	土器型式	備考
	掲載図	番号	Gr	遺構			層	口径	底径							
18	57	C3	SP23	黒色土上?	縄文土器	深鉢				1~3mm大の砂粒を含む	褐色 褐色	条痕 条痕	良好	後期		口縁部片
18	58	C3	SP23	黒色土上?	縄文土器	深鉢				0.5~1mm大の砂粒を少量含む 1~3mm大の砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
18	59	C3	SP23	黒色土上?	縄文土器	深鉢				0.5~1mm大の砂粒を少量含む	褐灰色 灰褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
18	60	B3	SP23	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	巻貝条痕後ナデ ナデ	良好	後期前葉?		刻み 口縁部片
18	61	B3	SP23	-	縄文土器	深鉢				1~3mm大の金雲母を含む 3~5mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
18	62	C3	SP23	黒色土上?	縄文土器	深鉢				3~5mm大の礫を含む	浅黄褐色 浅黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
18	63	B3	SP23	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
18	64	B3	SP23	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
18	65	C3	SP23	黒色土上?	縄文土器	深鉢				0.5~1mm大の砂粒を少量含む	にぶい褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
18	66	B3	SP23	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む 5~8mm大の礫を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	巻貝条痕(粗い) ナデ	良好	後期前葉?		胴部片
18	67	B3	SP23	-	縄文土器	浅鉢				1mm以下の砂粒を含む 1~3mm大の砂粒を少量含む	褐色 褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
19	68	B3	SP10	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	二枚貝条痕 二枚貝条痕	良好	後期前葉?		口縁部片
19	69	B3	SP10	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む 3mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期前葉	崎ヶ鼻1-2式	2段LR縄文? 沈線 胴部片
19	70	B3	SP10	黒色土下	縄文土器	鉢	(24.6)			0.1~0.3mm大の砂粒を少量含む	灰黄色 黒褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期前葉		精製無文土器 口縁~胴部片
19	71	B3	SP10	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		刺突? 口縁部片
19	72	B3	SP10	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む 1~3mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい黄褐色 にぶい褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
19	73	B3	SP10	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む	にぶい赤褐色 黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
19	74	B3	SP10	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の金雲母を含む 3mm大の砂粒をわずかに含む	黒褐色 灰黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
19	75	B3	SP10	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む	黒褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
19	76	B3	SP10	-	縄文土器	浅鉢				1mm以下の砂粒を含む 3mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ナデ ミガキ ナデ	良好	後期		底部片 平底
20	77	B2	SP13	黒色土中	縄文土器	深鉢				1~3mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木II式	燃糸文 胴部片
20	78	B2	SP13	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む 3mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい黄褐色 褐色	ナデ 二枚貝条痕	良好	後期前葉?		沈線 胴部片
20	79	B2	SP13	黒色土下	縄文土器	深鉢?				0.1~0.3mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期前葉		沈線 胴上部片
20	80	B2	SP13	-	縄文土器	鉢?				0.1~0.3mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ミガキ ナデ	良好	後期前葉		胴上部片
20	81	B2	SP13	黒色土上	縄文土器	注口土器				0.1~0.3mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期前葉?		刺突 胴上部片
20	82	B2	SP13	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	後期前葉?		2段LR縄文 胴部片
20	83	B2	SP13	黒色土上?	縄文土器	浅鉢				0.1~0.3mm大の砂粒を含む	黒色 灰黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期前葉~ 前葉		沈線 胴部片
20	84	B2	SP13	-	縄文土器	浅鉢(皿形)	(24.0)			0.1~0.3mm大の砂粒を少量含む 1~3mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期前葉~ 前葉		口縁部~胴部片
20	85	B2	SP13	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む 1mm大の雲母を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
20	86	B2	SP13	-	縄文土器	深鉢				0.3~0.5mm大の雲母を含む 1~3mm大の砂粒をわずかに含む	暗灰黄色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
20	87	B2	SP13	-	縄文土器	深鉢				3mm以下の砂粒を含む 5mm大の礫をわずかに含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
20	88	B2	SP13	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む 1mm大の金雲母を含む	にぶい黄褐色 褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
20	89	B2	SP13	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む 1mm大の雲母を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
20	90	B2	SP13	-	縄文土器	深鉢				1~3mm大の金雲母を少量含む 5mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい褐色 灰黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
20	91	B2	SP13	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む	明赤褐色 褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
20	92	B2	SP13	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む 1~3mm大の砂粒をわずかに含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		胴部片
21	93	C2	SP21	-	縄文土器	深鉢				0.5~1mm大の砂粒を含む 0.5~1mm大の雲母を少量含む	褐灰色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	後期前葉		2段RL縄文 胴部片
21	94	C2	SP21	-	縄文土器	深鉢				0.5~1mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ミガキ? ミガキ	良好	後期前葉		2段LR縄文 胴部片
21	95	C2	SP21	-	縄文土器	深鉢				1mm大の砂粒を含む 1~3mm大の金雲母を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
21	96	C2	SP21	-	縄文土器	深鉢				0.5~1mm大の砂粒を含む 1~3mm大の砂粒を少量含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
22	97	C3	SP25	-	縄文土器	深鉢				0.5~1mm大の砂粒を含む 0.5~1mm大の金雲母を含む	褐色 褐色~褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
22	98	C3	SP25	-	縄文土器	深鉢				0.5~1mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 灰黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
22	99	C3	SP25	-	縄文土器	深鉢				0.5~1mm大の金雲母を含む 5mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ナデ	良好	後期		口縁部片
22	100	C3	SP25	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む	褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		胴部片
22	101	C3	SP25	-	縄文土器	深鉢				0.3~0.5mm大の金雲母を含む 1mm以下の砂粒を含む	褐色、黄褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ナデ	良好	後期		胴部片
22	102	C3	SP25	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ナデ	良好	後期		胴部片
22	103	C3	SP25	-	縄文土器	深鉢				0.5~1mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	巻貝条痕(粗い) ナデ	良好	後期前葉?		胴部片
22	104	C3	SP25	-	縄文土器	深鉢				0.3~0.5mm大の金雲母を含む 1mm以下の砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ナデ	良好	後期		胴部片
22	105	C3	SP25	-	縄文土器	深鉢				0.5~1mm大の金雲母を少量含む 1~3mm大の砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい褐色	ナデ ナデ	良好	後期		底部片 平底
22	106	C3	SP25	-	縄文土器	深鉢				1~3mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ 一部二枚貝条痕? ナデ	良好	後期		底部片 凹底
23	107	A2	SK02	黒色土下	縄文土器	鉢				0.5~1mm大の砂粒を少量含む 1~3mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期前葉	崎ヶ鼻1式	2段LR縄文 口縁部片
23	108	A2	SK02	黒色土上?	縄文土器	深鉢				0.5~1mm大の砂粒を含む	にぶい褐色 灰黄褐色	巻貝条痕 条痕後ナデ	良好	後期前葉?		胴部片
23	109	A2	SK02	黒色土下?	縄文土器	深鉢				0.1~0.3mm大の砂粒を少量含む	浅黄褐色 浅黄褐色	ナデ ナデ	良好	晩期後葉	柱見I式	突帯 刻み 口縁部片
24	110	A2	SK04	-	縄文土器	深鉢				2mm以下の砂粒を含む 3~5mm大の砂粒をわずかに含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
24	111	A2	SK04	-	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む 1~3mm大の砂粒をわずかに含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
24	112	A2	SK04	-	縄文土器	深鉢				1~3mm大の砂粒を含む	灰黄褐色 黒褐色	巻貝条痕(粗い) ナデ ナデ	良好	後期前葉?		口縁部片

表5 土器観察表 (3)

挿図番号	出土位置				器種	量目 (cm)			胎土	色調 外面：上段 内面：下段	器面調整 外面：上段 内面：下段	焼成	時期	土器型式	備考
	掘取図	番号	Gr	遺構		層	口径	底径							
25	113	B1	SK19-1	黒色土下	縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.1 ~ 0.3mm大の雲母を含む	浅黄褐色 褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期初頭	九日田式	2段RL縄文 沈線 胴部片
25	114	B1	SK19-1	—	縄文土器	深鉢			2mm大の砂粒をわずかに含む	浅黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期初頭		沈線 胴部片
25	115	B1	SK19-1	黒色土上	縄文土器	深鉢			0.5mm以下の砂粒を少量含む 1 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ 条痕後ナデ	良好	後期前葉	崎ヶ鼻1式	2段RL縄文 口縁部片
25	116	B0?	SK19-1	—	縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.1 ~ 0.3mm大の金雲母を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ナデ	良好	後期前葉	崎ヶ鼻2式	2段RL縄文 沈線 口縁部片
25	117	B1?	SK19-1	—	縄文土器	鉢			0.5mm以下の砂粒を少量含む	淡黄色 黄灰色	ミガキ ミガキ	良好	後期前葉	小池原上層式	2段RL縄文 沈線 赤色顔料 胴部片
25	118	B1?	SK19-1	黒色土下	縄文土器	鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 黄灰色	ミガキ ミガキ	良好	後期前葉	小池原上層式	2段RL縄文 沈線 赤色顔料 (ベンガラ) 付着 胴部片
25	119	B1	SK19-1	—	縄文土器	浅鉢			5mm大の砂粒を含む	褐色 浅黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期前葉		刻み 胴部片
25	120	B1	SK19-1	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	明黄褐色 明黄褐色	条痕後ナデ 条痕	良好	後期		口縁部片
25	121	B1	SK19-1	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
25	122	B0?	SK19-1	黒色土上	縄文土器	鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 1mm以下の白色砂粒を少量含む	にぶい褐色 にぶい褐色	ナデ ナデ	良好	後期前葉		口縁部・胴部片
25	123	B1?	SK19-1	黒色土下	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 0.1 ~ 0.3mm大の雲母を含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ナデ	良好	後期前葉		胴部片
25	124	B0?	SK19-1	—	縄文土器	鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む 0.1 ~ 0.3mm大の雲母を少量含む	にぶい褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期初頭～ 前葉		胴部片
25	125	B1	SK19-1	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む 3mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい黄褐色 浅黄褐色	二枚貝条痕 一枚貝条痕	良好	後期初頭?		胴部片
25	126	B1	SK19-1	—	縄文土器	深鉢			2mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	巻貝条痕 (粗い) ナデ	良好	後期前葉?		胴部片
25	127	B1	SK19-1	—	縄文土器	深鉢			3mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	巻貝条痕 (粗い) ナデ	良好	後期前葉?		補修孔 胴部片
26	128	C1	SK26	—	縄文土器	深鉢			2mm大の砂粒を少量含む	黒褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期前葉		胴部片
26	129	C1	SK26	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む 3mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ 条痕後ナデ	良好	後期		口縁部片
26	130	C1	SK26	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む 3mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		底部片 平底?
27	131	YO	SK46	—	縄文土器	深鉢			3 ~ 5mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	後期前葉		2段LR縄文 胴部片
27	132	YO	SK46	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	褐色 黄灰色～浅黄色	二枚貝条痕 ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
27	133	YO	SK46	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい褐色 灰黄褐色	二枚貝条痕 ナデ	良好	後期初頭?		胴部片
27	134	YO	SK46	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	巻貝条痕 (粗い) ナデ	良好	後期前葉?		胴部片
28	135	B3	SP12	—	縄文土器	浅鉢 (皿形)	(40.8)		0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.5 ~ 1mm大の金雲母を含む	灰黄褐色 灰黄褐色	ナデ ミガキ	良好	後期初頭～ 前葉		外面煤付着 補修孔 口縁部片
28	136	B3	SP12	—	縄文土器	鉢	(23.4)		1mm以下の白色砂粒を少量含む 1 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	浅黄褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期初頭～ 前葉		口縁部片
28	137	B3	SP12	—	縄文土器	深鉢			0.5 ~ 1mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
29	138	B2	SP14	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 灰黄褐色	ナデ? ナデ	良好	後期前葉		2段LR縄文? 胴部片
29	139	B2	SP14	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む 3mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		胴部片
29	140	B2	SP14	—	縄文土器	深鉢			2mm以下の砂粒を含む	褐色 にぶい褐色	ナデ ナデ	良好	後期前葉		口縁部片
29	141	B2	SP14	—	縄文土器	深鉢			2mm以下の砂粒を含む 5mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい黄褐色 灰黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		底部片 平底
29	142	B2	SP14	—	縄文土器	浅鉢	(8.9)		1mm以下の砂粒を含む 3 ~ 4mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		底部片 平底
30	143	C1	SP20	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む 2mm大の砂粒を少量含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
30	144	C1	SP20	—	縄文土器	浅鉢 (皿形)			1mm以下の砂粒を含む 2mm大の砂粒をわずかに含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ナデ	良好	後期初頭～ 前葉		胴部片
30	145	C3	SP24	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む 1 ~ 3mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	巻貝条痕 (粗い) ナデ	良好	後期前葉?		胴部片
30	146	C3	SP24	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	巻貝条痕 (粗い) ナデ ナデ	良好	後期前葉?		胴部片
31	147	B3	SD01	—	縄文土器	深鉢			0.5 ~ 1mm大の砂粒を少量含む 1mm大の金雲母を含む	黒褐色 にぶい褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
31	148	B3	SD01	—	縄文土器	深鉢			1mm大の雲母を少量含む 1 ~ 3mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
31	149	B3	SD01	—	縄文土器	浅鉢			0.5 ~ 1mm大の砂粒を含む 1 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色～黒褐色 にぶい黄褐色～灰黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
31	150	B3	SD01	—	縄文土器	深鉢	(9.2)		0.3 ~ 0.5mm大の白色砂粒を少量含む 1 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	褐色～にぶい褐色 明褐色	ナデ ナデ	良好	後期		底部片 平底
32	151	Y3	SK41	—	縄文土器	深鉢			0.5 ~ 1mm大の砂粒を含む 0.5 ~ 1mm大の雲母を含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期中葉	沖丈式	2段RL縄文 胴部片
32	152	Z3	SK41	—	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む	褐色 褐色	ナデ ナデ	良好	晩期後葉	桂見1式	尖帯 刻み 口縁部片
32	153	Z3	SK41	—	縄文土器	鉢?	(26.0)		0.1 ~ 0.3mm大の雲母を含む 3 ~ 5mm大の雲母を含む	にぶい褐色 にぶい褐色	ナデ ミガキ ミガキ	良好	後～晩期		口縁部片
33	154	Z0?	SK32	—	縄文土器	鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 0.1 ~ 0.3mm大の金雲母を含む	灰黄褐色 灰黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期前葉	崎ヶ鼻1～ 2式	2段RL縄文 胴部片
33	155	Z1-2?	HP37	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	浅黄褐色 浅黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
33	156	Z1-2?	HP37	—	縄文土器	深鉢	(8.2)		0.5 ~ 1mm大の雲母を含む 2mm以下の砂粒を含む	にぶい褐色 黒褐色	ナデ ナデ	良好	後期		底部片 平底
33	157	Z3	SP40	—	縄文土器	浅鉢	(8.9)		0.3 ~ 0.5mm大の砂粒を少量含む 1 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		底部片 平底
33	158	B0?	調査区外土坑内?	黒色土下?	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 2 ~ 3mm大の砂粒を含む	褐色 褐色	ナデ ナデ	良好	後期		沈線 剥突 胴部片
33	159	A1	土坑内?	—	縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.3 ~ 0.5mm大の白色砂粒を含む	にぶい黄褐色 灰黄色	ミガキ ナデ ミガキ ナデ	良好	後期初頭	五明田式	2段RL縄文 沈線 胴部片
33	160	B0?	調査区外土坑内?	—	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 1 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期前葉	崎ヶ鼻1式	2段RL縄文 口縁部片
33	161	B0?	調査区外土坑内?	—	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む	暗褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期前葉	崎ヶ鼻2式	2段RL縄文 口縁部片
33	162	B0?	調査区外土坑内?	—	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む	浅黄褐色 にぶい黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期前葉	崎ヶ鼻1～ 2式	2段RL縄文 胴部片
34	163	—	—	—	縄文土器	深鉢			0.3 ~ 0.5mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期	船元式?	2段LR縄文 胴部片
34	164	—	—	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を少量含む 1 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期中葉	船元Ⅱ～ Ⅲ式?	2段RL縄文 胴部片
34	165	—	—	—	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を少量含む 1 ~ 3mm大の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ? ナデ	良好	中期	船元式?	2段LR縄文 底部片
34	166	C2	—	黒色土下	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 1mm大の白色砂粒を含む	褐色 褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	擦系文 口縁部片
34	167	—	—	—	縄文土器	深鉢			0.3 ~ 0.5mm大の白色砂粒を含む	褐色 褐色	ナデ? ナデ	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	擦系文 口縁部片
34	168	—	—	—	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	条痕? 条痕	良好	中期後葉	里木Ⅱ式	擦系文 沈線 胴部片

表6 土器観察表(4)

挿図番号	出土位置				器種	量目 (c.m)			胎土	色調 外面：上段 内面：下段	器面調整 外面：上段 内面：下段	焼成	時期	土器 型式	備考	
	掲載 番号	Gr	遺構	層		口径	底径	器高								
34	169	-	-	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 0.3 ~ 0.5mm大の砂粒を含む	にふい黄褐色 にふい黄褐色	ナデ? ナデ		良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺糸文 胴部片	沈線
34	170	C2		黒色土下 縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を少量含む 1 ~ 3mm大の砂粒を含む	浅黄褐色 にふい黄褐色	ナデ? ナデ		良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺糸文 胴部片	摺糸文 胴部片
34	171	C2		黒色土下 縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む	褐灰色 灰黄褐色	ナデ? ナデ		良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺糸文 胴部片	摺糸文 胴部片
34	172	-	-	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を含む	明褐色 黒褐色	ナデ? ナデ		良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺糸文 胴部片	摺糸文 胴部片
34	173	-	-	縄文土器	深鉢			0.3 ~ 0.5mm大の砂粒を含む	褐色 褐色	ナデ? ナデ		良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺糸文 胴部片	摺糸文 胴部片
34	174	-	-	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を少量含む 1 ~ 3mm大の白色砂粒を含む	褐色 にふい黄褐色	ナデ? ナデ		良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺糸文 胴部片	摺糸文 胴部片
34	175	-	-	縄文土器	深鉢			1mm以下の砂粒を少量含む	赤褐色 黒褐色	ナデ? ナデ		良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺糸文 胴部片	摺糸文 胴部片
34	176	-	-	縄文土器	深鉢	(5.4)		1 ~ 3mm大の砂粒を含む	にふい黄褐色 明褐色	ハケメ ナデ		良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺糸文 底部片	摺糸文 底部片
34	177	-	-	縄文土器	深鉢	(9.1)		1mm大の砂粒を含む 1 ~ 3mm大の白色砂粒を含む	灰黄褐色 褐灰色	ナデ? ナデ		良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺糸文 底部片	摺糸文 底部片
34	178	-	-	縄文土器	深鉢	(9.0)		0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む 1 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	にふい褐色 にふい黄褐色	ハケメ ナデ		良好	中期後葉	里木Ⅱ式	摺糸文 底部片	摺糸文 底部片
34	179	-	-	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む 2 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	褐色 にふい褐色	二枚貝条痕後ナデ 二枚貝条痕		良好	中期末		沈線 胴部片	
34	180	C2		黒色土上 縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 2 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	灰黄色 浅黄色	二枚貝条痕? 二枚貝条痕		良好	中期末		2段RL縄文 胴部片	沈線 胴部片
34	181	-	-	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 1 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	褐灰色 灰白色	二枚貝条痕後ナデ ハケメ ナデ		良好	中期末		2段RL縄文 口縁部片	沈線 口縁部片
35	182	C2		縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む	浅黄褐色 浅黄褐色	二枚貝条痕? 二枚貝条痕		良好	後期初頭	九日田式 古段階	2段RL縄文 口縁部片	沈線 口縁部片
35	183	C3		黒土上 縄文土器	深鉢			0.5mm以下の砂粒を少量含む	にふい赤褐色 灰黄色	二枚貝条痕後ナデ 二枚貝条痕		良好	後期初頭	九日田式 古段階	2段RL縄文 胴部片	沈線 胴部片
35	184	-	-	縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 1 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	浅黄褐色 灰白色	ミガキ? ミガキ		良好	後期初頭	九日田式 古段階	2段RL縄文 胴部片	沈線 胴部片
35	185	-	-	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む 0.5 ~ 1mm大の砂粒を少量含む	灰白色 灰白色	ミガキ ナデ		良好	後期初頭	九日田式 新段階	2段RL縄文 沈線 口縁部片	沈線 口縁部片
35	186	-	-	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む	浅黄褐色 黄褐色	ナデ? ナデ		良好	後期初頭	五明田式	2段RL縄文 胴部片	沈線 胴部片
35	187	C2		黒色土下 縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む	浅黄褐色 灰黄褐色	ミガキ ミガキ		良好	後期初頭	五明田式	2段RL縄文 口縁部片	沈線 口縁部片
35	188	D2		黒色土下 縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む	褐灰色 褐灰色	ミガキ ミガキ		良好	後期初頭	五明田式	2段RL縄文 胴部片	沈線 胴部片
35	189	C3		黒色土下 縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む	灰黄色 暗灰黄色	ミガキ ミガキ		良好	後期初頭	五明田式	2段RL縄文 胴部片	沈線 胴部片
35	190	C1		黒色土下 縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む	にふい黄褐色 にふい褐色	ミガキ ミガキ		良好	後期初頭	福田K2式 新段階	2段RL縄文 胴部片	沈線 胴部片
35	191	-	-	縄文土器	鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む	浅黄褐色 黒色	ミガキ ミガキ		良好	後期初頭	葬地式	2段RL縄文 胴部片	沈線 胴部片
35	192	-	-	縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む	灰白色 浅黄色	ミガキ ミガキ		良好	後期初頭	葬地式	2段RL縄文 胴部片	沈線 胴部片
35	193	-	-	縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む	黄褐色 黄褐色	ミガキ ミガキ		良好	後期初頭	葬地式	2段RL縄文 胴部片	沈線 胴部片
35	194	C2		黒色土中? 縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を多く含む	にふい黄褐色 にふい黄褐色	ミガキ 風化(ミガキ?)		良好	後期初頭	葬地式	沈線 胴部片	
36	195	B2		黒色土上? 縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む	にふい褐色 にふい黄褐色	ナデ ナデ		良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	沈線 刺突 口縁部片	
36	196	-	-	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む	にふい赤褐色 にふい赤褐色	ナデ ナデ		良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	沈線 刻み 口縁部突起(半環状) 口縁部片	
36	197	-	-	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む	にふい黄褐色 褐灰色	ナデ ナデ		良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	沈線 刻み 口縁部片	
36	198	B2		黒色土上 縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 1 ~ 3mm大の砂粒を含む	褐灰色 にふい褐色	ナデ ナデ		良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	沈線 刻み 外面煤付着 口縁部片	
36	199	C3		黒色土下 縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.3 ~ 0.5mm大の白色砂粒を含む	にふい赤褐色 にふい黄褐色	ナデ ナデ		良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	沈線 刻み 口縁部片	
36	200	C3		黒色土下 縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む	にふい黄褐色 灰黄褐色	ミガキ ミガキ?		良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	沈線 刻み 口縁部片	
36	201	C3		黒色土下 縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む	褐灰色 灰黄褐色	ミガキ ミガキ		良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	沈線 刻み 口縁部片	
36	202	B3		黒色土下 縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む	灰白色 灰黄褐色	ミガキ ミガキ		良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	沈線 刻み 口縁部片	
36	203	-	-	縄文土器	鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む	にふい黄褐色 明褐色	ナデ ナデ		良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	沈線 刻み 口縁部片	
36	204	B2		黒色土下 縄文土器	浅鉢	(29.2)		0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む	にふい黄褐色 にふい黄褐色	ミガキ ミガキ	ナデ	良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	沈線 刻み 口縁部~胴部片	
36	205	-	-	縄文土器	浅鉢	(33.1)		0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む 0.3 ~ 0.5mm大の砂粒を含む	褐色 灰白色	ナデ ナデ		良好	後期前葉	成立期縁 帯文土器	沈線 刻み 口縁部~胴部片	
36	206	-	-	縄文土器	深鉢			0.5mm以下の砂粒を少量含む	灰黄色 浅黄色	ナデ ナデ		良好	後期前葉	崎ヶ鼻1式 口縁部片		
36	207	C1		黒色土下 縄文土器	深鉢	(28.2)		0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む 1mm以下の砂粒を含む	にふい褐色 灰黄褐色	ミガキ ミガキ		良好	後期前葉	崎ヶ鼻1式 口縁部片	2段RL縄文 沈線 口縁部片	
36	208	-	-	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む	にふい褐色 灰褐色	ナデ ナデ		良好	後期前葉	崎ヶ鼻2式 胴部片		
36	209	-	-	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む	にふい黄褐色 にふい黄褐色	ミガキ? ミガキ		良好	後期前葉	崎ヶ鼻1-2式 胴部片	2段RL縄文 胴部片	
36	210	Z3		黒色土下 縄文土器	深鉢	(10.2)		0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む	にふい褐色 褐色	ナデ? ナデ		良好	後期前葉?		2段RL縄文 底部片	
36	211	-	-	縄文土器	鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む	褐色 明褐色	ナデ ナデ		良好	後期前葉		刻み 胴部片	
36	212	-	-	縄文土器	鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む 0.5mm大の砂粒を少量含む	にふい黄褐色 にふい黄褐色	ミガキ ナデ		良好	後期前葉		2段RL縄文 口縁部~胴部片	
36	213	-	-	縄文土器	鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 1mm大の砂粒を少量含む	灰黄褐色 灰黄褐色	ミガキ ミガキ		良好	後期前葉		2段RL縄文 胴部片	
36	214	A4		黒色土下 縄文土器	鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む	にふい褐色 灰褐色	ナデ ナデ		良好	後期前葉		2段RL縄文 胴部片	
36	215	B2		縄文土器	浅鉢or 注口土器			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 1 ~ 3mm大の砂粒を少量含む	にふい黄褐色 灰白色	ナデ? ナデ		良好	後期前葉		2段RL縄文 胴部片	
36	216	-	-	縄文土器	鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む	暗赤色 灰黄色	ミガキ ミガキ		良好	後期前葉	小池原上 橋式	2段RL縄文 沈線 赤色顔料 (ペン方)付着 胴部片	
37	217	-	-	縄文土器	浅鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む	灰黄褐色 褐灰色	ミガキ ナデ		良好	後期中葉	元住吉山 1式	縦線文(巻貝回転) 胴部片	
37	218	-	-	縄文土器	浅鉢	(36.0)		0.3 ~ 0.5mm大の砂粒を含む 1mm以下の砂粒を多く含む	褐灰色 にふい黄褐色	ミガキ ナデ		良好	後期中葉	元住吉山 1式	沈線 刻み 口縁部片	
37	219	Z1		黒色土下 縄文土器	注口土器			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.1 ~ 0.3mm大の炭母を少量含む	褐灰色 浅黄色	ミガキ ナデ		良好	後期中葉	元住吉山 1式	縦線文(巻貝回転) 胴部片	
37	220	B3		縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 0.1 ~ 0.3mm大の炭母をわずかに含む	褐灰色 灰褐色	ミガキ ミガキ		良好	後期後葉	元住吉山 Ⅱ式	凹線 刺突 刻み 口縁部片	
37	221	B2		黒色土下 縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む	浅黄褐色 にふい黄褐色	ナデ ナデ		良好	晩期中葉	原田式新 段階	刻み 口縁部片	
37	222	C3		黒色土下 縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む	にふい褐色 浅黄褐色	ナデ ナデ		良好	晩期中葉	原田式新 段階	刻み 口縁部片	
37	223	-	-	縄文土器	深鉢			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む	浅黄褐色 灰黄褐色	ナデ ナデ		良好	晩期後葉	古市河原 田式	突帯 刻み 胴部片	
37	224	-	-	縄文土器	深鉢			1mm大の砂粒を少量含む	にふい褐色 にふい褐色	ナデ 条痕後ナデ		良好	晩期後葉?	東日本系 土器?	2段RL縄文 刺突 口縁部片	

表 7 土器観察表 (5)

挿図番号	出土位置				種別	器種	法量 (c m)			胎土	色調 外面：上段 内面：下段	器面調整 外面：上段 内面：下段	焼成	時期	土器 型式	備考
	掘削 区	番号	Gr	遺構 層			口径	底径	器高							
38	225	C3		黒色土 下	縄文土器	深鉢				1mm以下の砂粒を含む	浅黄色 灰白色	ナデ 二枚貝条痕後ナデ	良好	後期初頭?		刻み 口縁部片
38	226	C3		黒色土 下	縄文土器	深鉢				0.5 ~ 1mm大の砂粒を含む	黒褐色 にふい黄褐色	巻貝条痕 (粗い) ナデ	良好	後期前葉?		口縁部片
38	227	-		黒色土 中	縄文土器	深鉢				1mm大の砂粒を少量含む	黒褐色 にふい黄褐色	巻貝条痕 (粗い) ナデ	良好	後期前葉?		口縁部片
38	228	C1 B1		黒色土 上・下	縄文土器	深鉢				0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 0.1 ~ 0.3mm大の金雲母を少量含む	明赤褐色 にふい褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期		口縁部片
38	229	-		-	縄文土器	深鉢	(28.0)			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む	灰黄褐色 灰黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期		補修孔 口縁部片
38	230	-		-	縄文土器	深鉢				0.5 ~ 1mm大の金雲母を少量含む 1 ~ 3mm大の砂粒を含む	褐灰色 灰黄褐色	巻貝条痕 (粗い) ナデ	良好	後期前葉?		内面肥厚指頭圧痕土器 口縁部片
38	231	B2		黒色土 下	縄文土器	深鉢				1 ~ 3mm大の砂粒を含む	灰黄褐色 にふい黄褐色	巻貝条痕 (粗い) ナデ	良好	後期前葉?		内面肥厚指頭圧痕土器 口縁部片
38	232	D2		黒色土 下	縄文土器	深鉢				1 ~ 3mm大の砂粒を含む 3 ~ 5mm大の砂粒を少量含む	にふい赤褐色 暗灰黄色	ナデ ナデ	良好	後期前葉?		内面肥厚指頭圧痕土器 口縁部片
38	233	C2		黒色土 下	縄文土器	浅鉢 (皿形)	(24.8)	(17.1)	(2.2)	0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む 0.1 ~ 0.3mm大の金雲母を含む	褐色 灰黄褐色	ミガキ ミガキ ナデ	良好	後期初頭~ 前葉?		口縁部~底部片
38	234	D2		黒色土 下	縄文土器	浅鉢 (皿形)				0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む	にふい褐色 にふい褐色	ミガキ ナデ ミガキ	良好	後期初頭~ 前葉?		口縁部片
38	235	-		黒色土 中?	縄文土器	浅鉢				1 ~ 3mm大の砂粒を含む	にふい褐色~黒褐色 にふい黄褐色	ナデ ナデ	良好	後期		口縁部片
38	236	C2		黒色土 下	縄文土器	浅鉢				0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む	褐灰色 浅黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期		補修孔 口縁部片
38	237	-		-	縄文土器	浅鉢				0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む	黄灰色 黄灰色	ミガキ ミガキ	良好	後期		口縁部片
38	238	C2		黒色土 上	縄文土器	浅鉢				0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 0.3 ~ 0.5mm大の白色砂粒を含む	にふい褐色 にふい黄褐色	二枚貝条痕 二枚貝条痕	良好	後期初頭?		補修孔 底部片
38	239	B3		黒色土 下	縄文土器	浅鉢				0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む	にふい黄褐色 灰黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期		補修孔 胴部片
38	240	D2		黒色土 下	縄文土器	浅鉢				0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を含む	灰白色 灰黄褐色	ミガキ ナデ	良好	後期		胴部片
38	241	C3		黒色土 下	縄文土器	浅鉢				0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 0.1 ~ 0.3mm大の金雲母を含む	灰黄褐色 灰黄褐色	ミガキ ナデ ミガキ	良好	後期前葉?		口縁部片
38	242	C2		黒土 下	縄文土器	浅鉢 (皿形)	(19.8)			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を少量含む 0.1 ~ 0.3mm大の金雲母を少量含む	にふい黄褐色 にふい黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期		口縁部~胴部片
38	243	C3		黒色土 下	縄文土器	浅鉢 (皿形)				0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.5 ~ 1mm大の金雲母を少量含む	にふい黄褐色 灰黄褐色	ミガキ ミガキ	良好	後期前葉~ 前葉?		胴部片
38	244	C3		黒色土 下	縄文土器	浅鉢 (皿形)	(25.8)			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.3 ~ 0.5mm大の金雲母を含む	にふい黄褐色 灰褐色	ナデ ミガキ	良好	後期初頭~ 前葉?		外面煤付着 口縁部片
38	245	C3		黒色土 下	縄文土器	浅鉢	(12.6)			0.1 ~ 0.3mm大の白色砂粒を少量含む	にふい黄褐色 黒色	ミガキ ナデ ミガキ	良好	後期		底部片 高台底
38	246	-		-	縄文土器	浅鉢	(7.0)			0.1 ~ 0.3mm大の砂粒を含む 0.3 ~ 0.5mm大の白色砂粒を含む	灰白色 褐灰色	ミガキ ナデ ナデ	良好	後期		底部片 凹底
38	247	D3		黒色土 中	縄文土器	浅鉢 (皿形)	(10.0)			0.5mm以下の砂粒を少量含む 0.5 ~ 1mm大の白色砂粒を少量含む	淡黄色 にふい黄褐色	ミガキ ナデ ミガキ	良好	後期		底部片 平底



図版 1 土器埋設遺構 SJ01・SJ02 (南東から)



図版2 遺跡周辺遠景（東から）



図版3 A IV区全景（1）（南東から）



図版4 A IV区全景（2）（南西から）



図版5 A IV区全景（3）（東から）



図版6 貯蔵穴 SK27（南西から）



図版7 貯蔵穴 SK28（南西から）



図版8 貯蔵穴 SK29（南西から）



図版9 貯蔵穴 SK31（北西から）



図版 10 土器埋設遺構 SJ01・SJ02 周辺 (南東から)



図版 11 土器埋設遺構 SJ01・SJ02 (南東から)



図版 12 土器埋設遺構 SJ01 (東から)



図版 13 土器埋設遺構 SJ02 (南から)



図版 14 SJ01 埋設土器内部土層堆積状況 (東から)



図版 15 配石土坑 ST38-2 (南から)



図版 16 調査完了状況 (南東から)



図版 17 埋設土器取上準備状況 (南から)



図版 18 SJ01 埋設土器



図版 19 SJ02 埋設土器



図版 20 SJ01・SJ02 埋設土器